

**USB**  
**Sound**  
**BLASTER**  
*Digital Music*

**USB Sound Blaster**  
**Digital Music シリーズ録音ガイド**



## USB Sound Blaster Digital Music シリーズ録音ガイド

### これを読めば、すぐに録音～オリジナル音楽 CD が作成できる！

この度はクリエイティブの Sound Blaster Digital Music シリーズをご購入いただきまして、まことにありがとうございます。本ガイドは発売以来、多大なるご愛顧をいただいている USB Sound Blaster Digital Music シリーズ（以下 Digital Music と略します）用の録音ガイドです。

Microsoft® Windows XP® がインストールされたパソコンの設定から、Digital Music とソフトウェアのインストール、カセットデッキやレコードプレーヤー等の外部アナログ機器の接続方法や、これらの音楽を録音してオリジナルの音楽 CD を作成する手順を **ステップ・バイ・ステップ** で解説していますので、是非、本ガイドを読みながら実際に操作を行って、Digital Music の高品質なハードウェアとクリエイティブの優れたソフトウェアを使用した録音の快適さを体感して下さい。

本ガイドは大きく以下の 3 つの章に分かれています。

- 準備編
- Creative Smart Recorder 編
- Creative MediaSource 編

上記以外のソフトウェアの使い方については、各ソフトウェアの画面右上に用意されております [ヘルプ] メニューをご参照ください。また製品によってはクリエイティブ以外のサードパーティ製ソフトウェアが付属している場合があります。これらサードパーティ製ソフトウェアについての操作方法などのご質問は、各ソフトウェアメーカー様にお問い合わせ下さい。

本書の内容は、改良のため予告無く変更される場合があります。Creative Technology Ltd. の責務を表すものではありません。本書記載内容に不備や不適切な表現があり、お客様の誤解を招いた場合でも、Creative Technology Ltd. およびクリエイティブメディア株式会社では一切の保証を致しかねます。Creative Technology Ltd. またはその関係会社は、いかなる場合においても直接的、間接的、付随的、結果的のいずれかにより生じたビジネス上の利益の喪失、データの喪失、懲罰的損害賠償または特別な損害賠償について、Creative Technology Ltd. またはその関係会社がそうした損害の発生可能性を通知されていた場合であっても、一切の責任を負いません。電氣的または、機械的の別やその形式や方法を問わず、どのような目的であれ、本書のいかなる部分も Creative Technology Ltd. との書面による許可を得ることなく、複製したり伝送したりすることは出来ません。これには写真複写や録音も含まれます。本書で説明される製品およびソフトウェアは、あなたが著作権保有者であるか、著作権保有者から複製の許諾を得ている素材を制作する手段としてのものです。もしあなた自身が著作権を所有していない場合か、著作権保有者から複製許諾を得ていない場合は、著作権法の侵害となり、損害賠償を含む保証義務を負うことがあります。ご自身の権利について不明な場合は、法律の専門家にご相談ください。Copyright © 2007 by Creative Media K.K. All rights reserved.

Creative ロゴ、Sound Blaster、および Sound Blaster ロゴは、米国およびその他の国における Creative Technology Ltd. の登録商標または商標です。Microsoft、Windows、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の登録商標です。その他すべての製品はそれぞれの所有者の商標および登録商標です。

第 1.2 版

2007 年 6 月

# 目次

<b>作業を始める前に：準備編</b> .....	<b>5</b>
搭載されているサウンド機能の無効設定 .....	5
▶ Windows のデバイスマネージャでドライバを無効に設定する .....	6
Digital Music の接続、およびソフトウェアのインストール .....	8
▶ Digital Music をパソコンの USB 端子に接続し、ソフトウェアをインストールする .....	8
▶ ユーザー登録を行う .....	8
▶ Digital Music が正しくインストールされているかを確認する .....	9
Digital Music のドライバの更新 .....	9
▶ ドライバの更新を行う .....	9
Windows コントロールパネルの設定 .....	11
▶ Windows コントロールパネルで Digital Music を設定する .....	11
他の機器との接続 .....	13
Digital Music SX の場合 .....	13
▶ Digital Music SX とアナログ再生機器とを接続する .....	13
▶ [補足] Digital Music SX と再生機器とをデジタル接続するには .....	14
▶ Digital Music SX とアナログのアクティブスピーカーシステムとを接続する .....	14
Digital Music PX の場合 .....	15
▶ Digital Music PX とアナログ再生機器とを接続する .....	15
▶ [補足] Digital Music PX と再生機器とをデジタル接続するには .....	15
▶ Digital Music PX とアナログのアクティブスピーカーシステムとを接続する .....	16
Digital Music LX の場合 .....	17
▶ Digital Music LX とアナログ再生機器とを接続する .....	17
▶ Digital Music LX とアナログのアクティブスピーカーシステムとを接続する .....	18
<b>アナログ音源の録音とファイルのノイズ除去や自動分割を行う：（Creative Smart Recorder 編）</b> .....	<b>19</b>
Creative Smart Recorder .....	19
Smart Recorder で録音する .....	19
▶ Smart Recorder を起動する .....	19
[逐次録音] パネル .....	20
▶ [逐次録音] パネルを使用して録音する .....	20
録音の設定 .....	20
録音 .....	21
[録音ウィザード] パネル .....	22
▶ [録音ウィザード] パネルを使用して録音する .....	22
ステップ 1/7: 録音レベルの調整 .....	22
ステップ 2/7: 録音時間の指定 .....	23
ステップ 3/7: トラックの録音 .....	24
ステップ 4/7: トラック分割 / クリーンアップの指定 .....	25
ステップ 5/7: トラックの自動分割 .....	26

ステップ 6/7: トラックのクリーンアップ .....	27
ステップ 7/7: トラックの保存 .....	28
トラックのノイズ除去や自動分割を行う .....	29
[マイレコーディング] パネル .....	29
▶ トラック分割の設定を行う .....	29
▶ 他のソフトウェアで録音したファイルをインポートする .....	30
クリーンアップ .....	30
トラック分割 .....	30
▶ [逐次録音] パネルで録音したファイルのクリーンアップ / 自動分割を行う .....	31
クリーンアップ .....	31
トラック分割 .....	31
▶ トラックを試聴する .....	31
<b>カセットテープなどのアナログ音源を録音しオリジナルの音楽 CD を作成する：(Creative MediaSource 編) .....</b>	<b>33</b>
Creative MediaSource .....	33
MediaSource で録音する .....	33
▶ MediaSource を起動する .....	33
Creative MediaSource オーガナイザ .....	36
Creative MediaSource プレイヤー .....	36
▶ MediaSource で録音を行う .....	37
録音ステータスの表示 .....	37
録音の設定 .....	37
録音と保存 .....	39
MediaSource でオリジナルの音楽 CD を作成する .....	41
▶ オリジナル CD を作成する .....	41
CD 書き込みリストの作成 .....	41
CD 書き込みリストの保存と削除 .....	42
最後に .....	42

## 作業を始める前に：準備編

本章では、Digital Music を使用するためのパソコンの設定、Digital Music のハードウェア/ソフトウェアのインストール、関連機器の接続を解説しています。なお Digital Music の各機能の詳細や搭載されている入出力端子の詳細など、本ガイドで解説されていない部分についてはそれぞれ付属のユーザズガイドを参照して下さい。

### 搭載されているサウンド機能の無効設定

Digital Music の接続とデバイスドライバのインストールの前に、パソコンに搭載されているサウンド機能（マザーボード上のサウンド機能や別途装着されたサウンドカード等）を無効に設定、またはアンインストールします。

これは「通常 Windows のコントロールパネル上で設定して使用することができるサウンド機能は1つだけ」という制限によるもので、パソコンに元々搭載されているサウンド機能が有効になっている場合には、Digital Music を正しくインストールしても、その全機能を適切に使用できない可能性があるためです。パソコンに搭載されているサウンド機能を完全に無効とした上で、Digital Music をインストールすることで、Digital Music の全機能をお使いいただけるようになります。

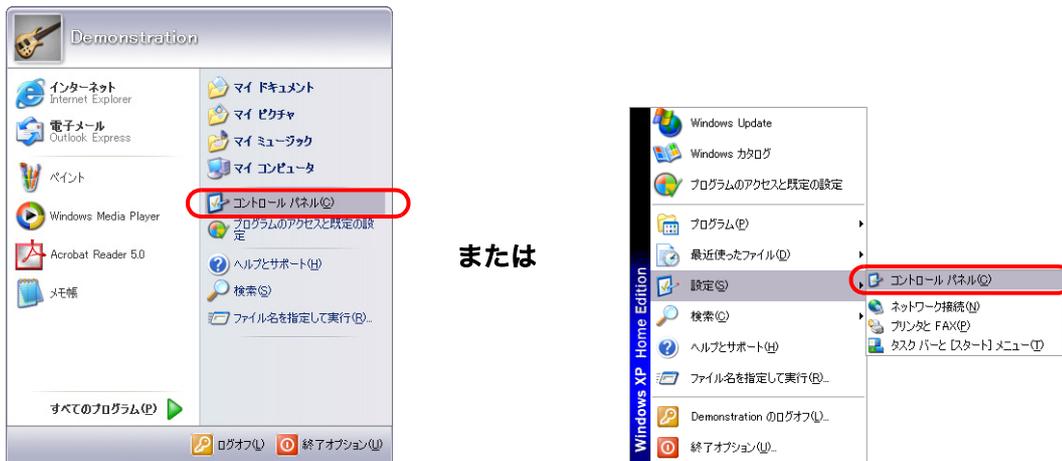
この作業により、パソコン本体上に装備されているサウンドの入出力端子（ライン出力やマイク入力、ヘッドフォン出力など）は使用することができなくなります。また、パソコンにスピーカーが内蔵されている場合にもこのスピーカーからのサウンド出力も行えません。しかしながら、Windows 上で Digital Music を有効に設定することで、Digital Music 上に装備されておりますこれらの入出力端子を使用することができるようになりますので、お使いのスピーカーやヘッドフォンを Digital Music に接続して楽しみ下さい。

サウンド機能を無効にするには、お使いのパソコンの環境に従って幾つかの方法があります。

- **Windows 起動時に BIOS 設定画面に入り、BIOS 上で無効設定を行う**  
→ パソコンのメーカーにより、BIOS の設定方法が異なりますので、詳しい設定方法はお使いのパソコンのマニュアルを参照するか、メーカー様へお問い合わせ下さい。
- **パソコン内に装着されているサウンドカード等を取り外し、デバイスドライバと関連するソフトウェアをアンインストールする**  
→ サウンドカード等のマニュアルを参照して、カードの取り外しとデバイスドライバ・ソフトウェアのアンインストールを行って下さい。
- **Windows のデバイスマネージャで該当のデバイスドライバを無効に設定する**  
→ 次ページから詳しく解説します。なお、この手順でデバイスドライバを無効に設定した場合、通常では後日に再度有効に戻すことは可能です。

▶ Windows のデバイスマネージャでドライバを無効に設定する

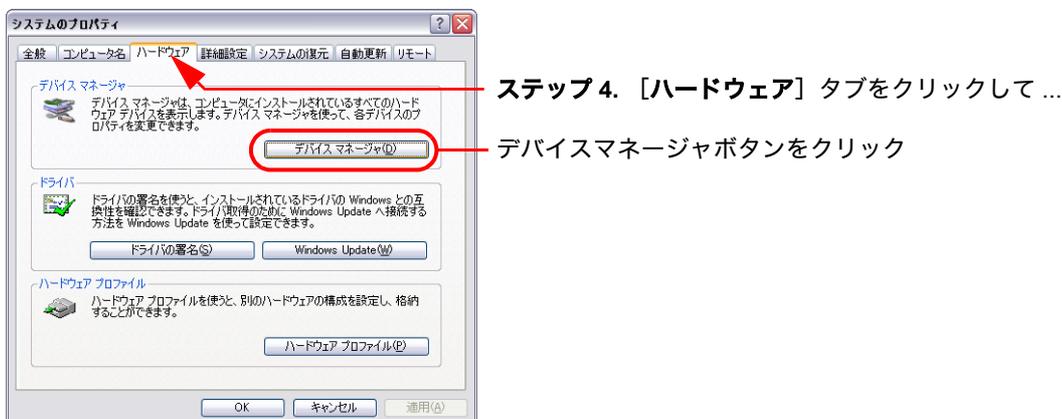
1. Windows タスクバー上の [スタート] ボタン ( スタート ) > [コントロールパネル] (または [スタート] > [設定] > [コントロールパネル]) の順にクリックしてコントロールパネルを開きます。



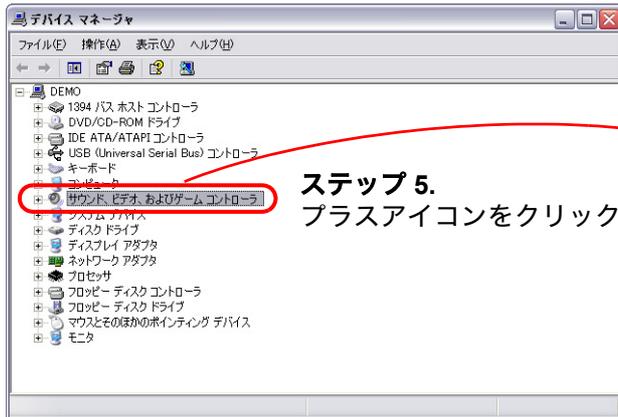
2. 「作業する分野を選びます」と表示された場合、[パフォーマンスとメンテナンス] アイコンをダブルクリックします。



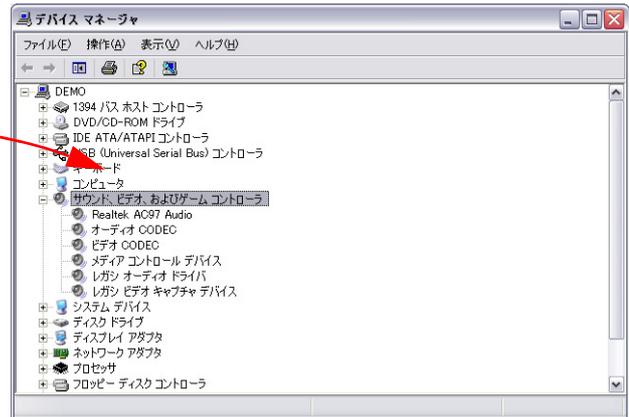
3. [システム] アイコン ( システム ) をダブルクリックして開き、「システムのプロパティ」画面を表示します。
4. 上部の [ハードウェア] タブをクリックして選択し、[デバイスマネージャ] ボタンをクリックして「デバイスマネージャ」画面を表示します。



5. 「サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ」と書かれたアイコン左のプラスアイコン ( ) をクリックして開きます。

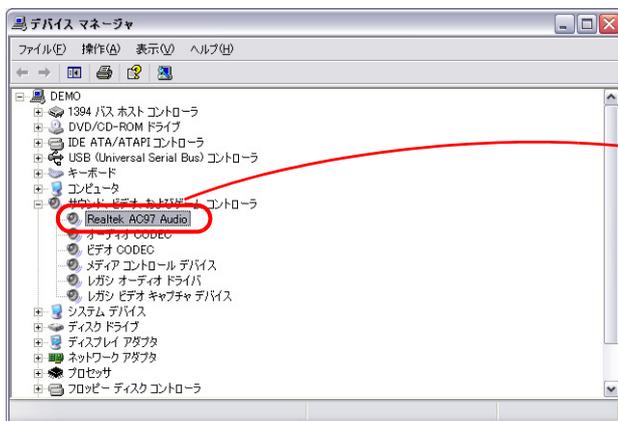


ステップ 5.  
プラスアイコンをクリック



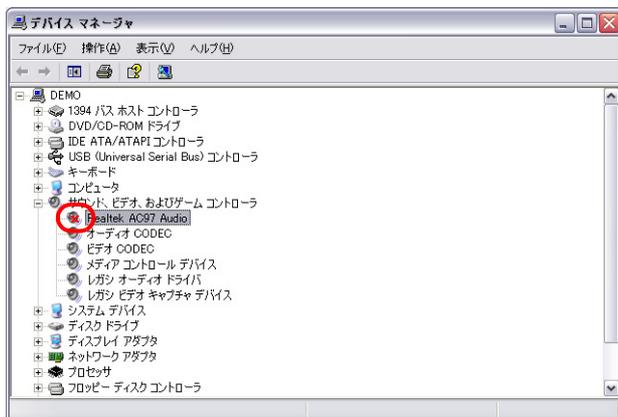
ステップ 6. サウンド機能名の上で右クリック

6. お使いのパソコンのマザーボードに搭載されているサウンド機能がリストされていますので、そのアイコン上で右クリックします。



ステップ 7. メニューから "無効" を選択

7. 表示されるメニューから、"無効" を選択します。
8. 「このデバイスを無効にすると機能しなくなります。」という確認のダイアログボックスが表示されますので、[はい] をクリックします。
9. マザーボードに搭載されているサウンド機能のアイコンに赤い×印がついたことを確認します。  
なお、この赤い×印のついているアイコンを右クリックし、表示されるメニューから "有効" を選択することで、サウンド機能を復旧することができます（場合によってはパソコンに付属するインストール CD-ROM が必要になるかもしれません）。



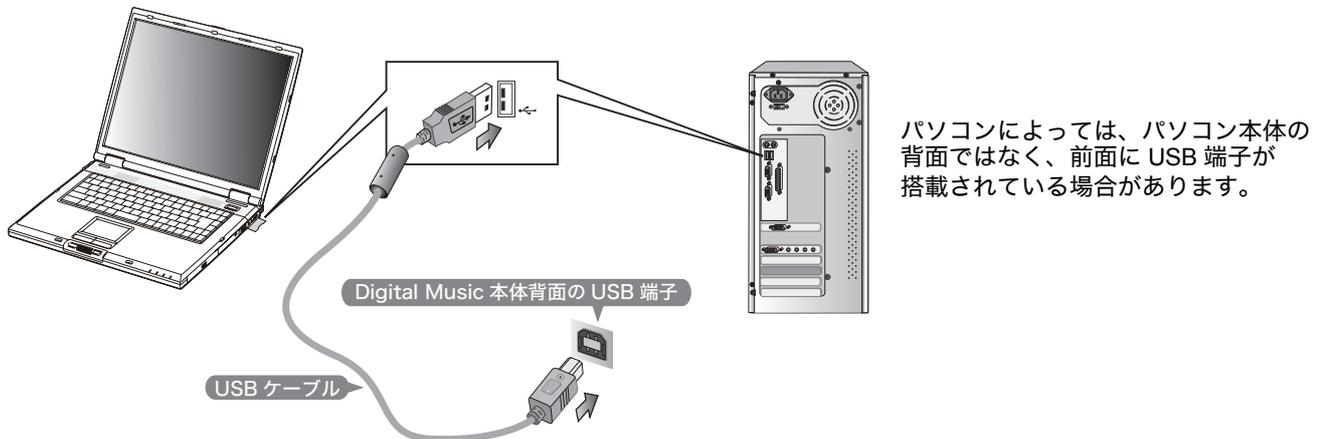
10. 一旦パソコンの電源を切り、Digital Music のインストール作業に進みます。

## Digital Music の接続、およびソフトウェアのインストール

パソコンに Digital Music を接続し、次に必要なデバイスドライバとソフトウェアのインストールを行います。

### ▶ Digital Music をパソコンの USB 端子に接続し、ソフトウェアをインストールする

1. パソコンの電源が切れている状態で、製品に付属する USB ケーブルで Digital Music 背面の USB 端子とパソコンの USB 端子を接続します。



パソコンによっては、パソコン本体の背面ではなく、前面に USB 端子が搭載されている場合があります。

2. パソコンの電源を投入します。Windows が Digital Music を自動的に検出し、デバイスドライバを検索します。
3. デバイスドライバのインストールを促すダイアログボックスが表示されたら、[キャンセル] ボタンをクリックして下さい。
4. 製品に付属するインストール CDROM をパソコンの CD-ROM/DVD-ROM ドライブに挿入します。CD 内のインストーラーが自動的に起動します。自動的に起動しない場合は、以下の手順でインストーラーを起動します。
  - i. [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリック、または [スタート] > [マイコンピュータ] をクリックします。
  - ii. インストール CD を挿入した CD-ROM/DVD-ROM ドライブのアイコンを右クリックします。
  - iii. 表示されるメニューから [自動再生] をクリックします。
5. インストーラーが起動したら、画面の指示に従って、まず最初にお住まいの地域（日本の場合は [アジア]）を選択し、続けてお使いの言語（[日本語]）を選択します。次にデバイスドライバとソフトウェアのインストールしたいオプションを選択します。
6. 画面の指示に従ってインストールを行います。インストール完了後、再起動を促されますので、指示に従ってコンピュータを再起動して下さい。

### ▶ ユーザー登録を行う

デバイスドライバ/ソフトウェアのインストール後、最初の起動時にユーザー登録を促すメッセージが表示されることがあります。ユーザー登録を行うことで、技術サポートなどのサービスやキャンペーンやイベントなどをお知らせするメールサービスなど、様々な特典を受けることができます。



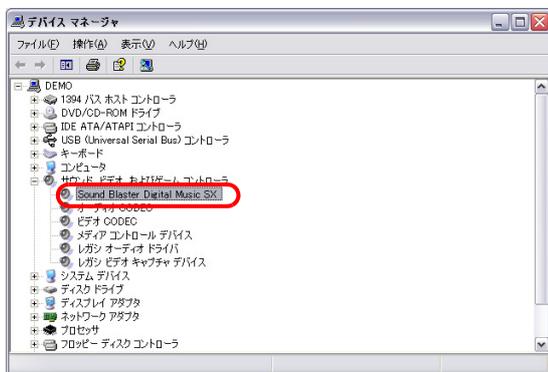
注意：ユーザー登録時には、お客様の個人情報の登録が必要になります。個人情報を提供したくない場合は、[キャンセル] をクリックしてユーザー登録を中止して下さい。

1. パソコンがインターネットに接続できる状態であることを確認します。
2. Digital Music がパソコンに接続されていることを確認します。
3. ユーザー登録を開始します。ユーザー登録を求めるメッセージが表示されている場合は、製品のシリアル番号（製品底面、または製品箱の裏面に記載されています）と購入日を入力、[次へ] をクリックします。メッセージが表示されていない場合は、デスクトップ上にある [プロダクトレジストレーション] アイコンをダブルクリックします。
4. 画面の指示に従ってユーザー登録を行います。

### ▶ Digital Music が正しくインストールされているかを確認する

デバイスドライバとソフトウェアのインストールが完了したら、インストールが正しく行えているかを確認します。

1. [6 ページ](#) で解説したステップに従い、「デバイスマネージャ」画面を表示します。
2. 「サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ」と書かれたアイコン左のプラスアイコンをクリックして開きます。
3. 「Sound Blaster Digital Music」(Digital Music PX/LX の場合)、または「Sound Blaster Digital Music SX」(Digital Music SX の場合) と表示されていることを確認します。

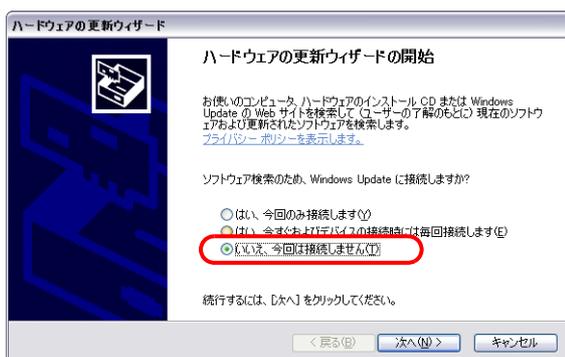


## Digital Music のドライバの更新

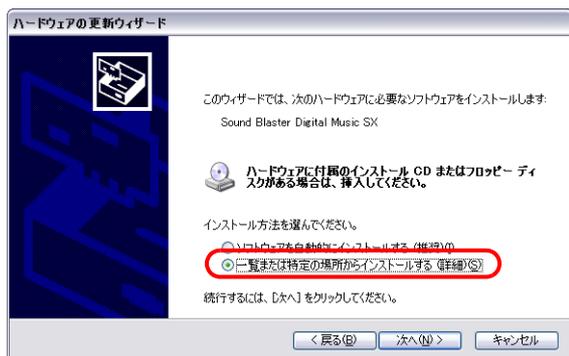
Digital Music に付属するインストール CD-ROM から、デバイスドライバとソフトウェアをインストールしたにも関わらず、デバイスマネージャ上で「Digital Music」ではなく「USB オーディオデバイス」と表示される場合、デバイスドライバが正しくインストールされていない可能性があります。このような場合は、以下の手順でデバイスドライバを更新して下さい。

### ▶ ドライバの更新を行う

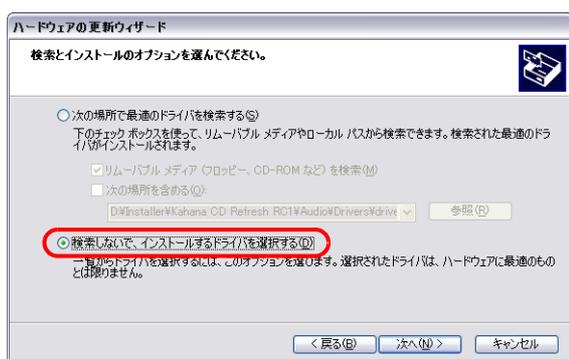
1. 上図「デバイスマネージャ」画面内の、「USB オーディオデバイス」表示上で右クリックし、表示されるメニューから「ドライバの更新」を選択します。
2. Windows XP サービスパック 2 の場合、下図の画面が表示されますので、「いいえ、今回は接続しません」を選択して [次へ] をクリックします。



3. 次に表示される下図の画面で、"**一覧または特定の場所からインストールする (詳細)**" を選択し、[次へ] をクリックします。



4. 下図の画面で "**検索しないで、インストールするドライバを選択する**" を選択し、[次へ] をクリックします。



5. 次の画面で、お使いの **Digital Music の製品名** (下図の例では "**Sound Blaster Digital Music SX**") を選択して [次へ] をクリックします。  
この画面で、お使いの **Digital Music の製品名** がリストに表示されない場合、Digital Music のデバイスドライバが適切にインストールされていない状態になります。[8 ページ](#) の手順に従ってデバイスドライバをインストールしたにも関わらず、ここに表示されない場合には、弊社カスタマーサポートまでご連絡ください。



6. 以上の手順で正しいドライバがインストールされました。画面の指示に従ってパソコンを再起動して下さい。  
7. もし上記の手順を行っても Digital Music が正しく認識されない場合は、弊社カスタマーサポートまでご連絡下さい。

## Windows コントロールパネルの設定

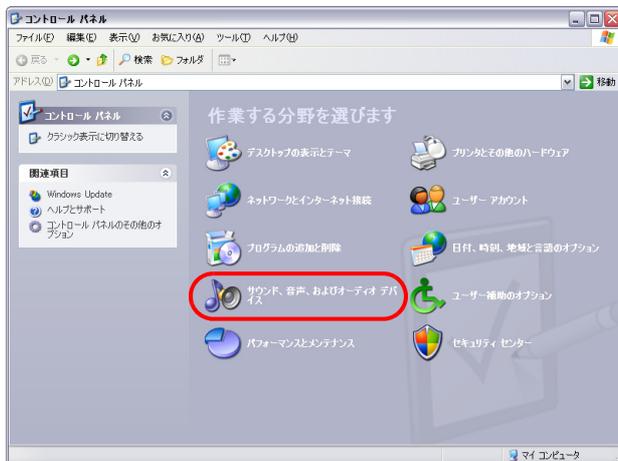
Digital Music のデバイスドライバとソフトウェアが正しくインストールされたら、Windows のコントロールパネルで Digital Music を通常使用するサウンドデバイスとして設定します。

### ▶ Windows コントロールパネルで Digital Music を設定する

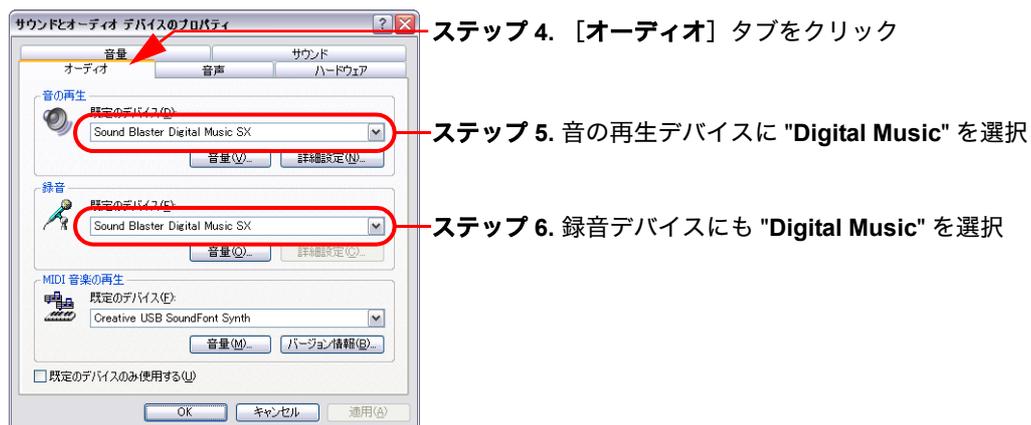
1. Windows タスクバー上の [スタート] ボタン (  スタート ) > [コントロールパネル] (または [スタート] > [設定] > [コントロールパネル]) の順にクリックしてコントロールパネルを開きます。



2. 「作業する分野を選びます」と表示された場合、[サウンドとオーディオデバイス] アイコンをダブルクリックします。



3. [サウンドとオーディオデバイス] アイコン (  サウンドとオーディオ デバイス ) をダブルクリックして開きます。
4. 「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」画面が表示されたら、上部の [オーディオ] タブをクリックします (次ページ図参照)。



5. 「音の再生」セクションにある「既定のデバイス」リストから "Digital Music" を選択します。
6. 同様に「録音」セクションでも「既定のデバイス」リストで "Digital Music" を選択します。

以上で Windows 上での基本的な設定は完了です。続いて、録音を行うための接続を行います。

## 他の機器との接続

Digital Music はアナログおよびデジタル入力端子（Digital Music LX はアナログ入力のみ）を搭載し、様々な機器のサウンドを入力することができます。またライン出力端子には、アクティブスピーカーシステムやミニコンポなどを接続することで、より高品質な音楽再生が可能になります。ここでは、カセットテープやレコードプレーヤーなどのアナログ再生機器との接続方法と、アナログのアクティブスピーカーシステムの接続について解説します。なお、[5 ページ](#)で解説しましたように、Windows 上で正しく設定を行った場合、パソコンに搭載されているスピーカーからは音が出されなくなりますので、アクティブスピーカーシステムやミニコンポ、ヘッドフォンなどを Digital Music に接続することを強くお勧めします。

お使いの機器が：

- Digital Musix SX の場合は、[13 ページ](#)を参照して下さい。
- Digital Musix PX の場合は、[15 ページ](#)を参照して下さい。
- Digital Music LX の場合は、[17 ページ](#)を参照して下さい。

## Digital Music SX の場合

### ▶ Digital Music SX とアナログ再生機器とを接続する

Digital Music SX は本体フロントパネルとリアパネルに1つずつ、計2系統のアナログ入力端子を装備しています。これらのアナログ入力端子に機能的な違いはありませんので、どちらでも使いやすい方をご使用下さい。

以下の例では、**フロントパネルに装備されているアナログ入力端子 1**（"Line In 1"）を使用します。

1. カセットデッキ、フォノアンプ内蔵アナログレコードプレーヤー等の再生機器に装備されている**ライン出力端子**（通常は RCA 端子）と、Digital Music SX フロントパネルの**ライン入力端子 1**（RCA 端子）とを、市販のアナログラインケーブル（両端 RCA 端子）で接続します。

**注意：** Digital Music SX にはフォノアンプは搭載されていないので、フォノアンプを内蔵していないレコードプレーヤーを直接接続することはできません。別途市販のフォノアンプ搭載プリアンプやミキサーなどをご用意下さい。

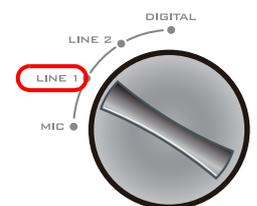


#### 注意！

ライン出力端子とライン入力端子を接続する際に、「抵抗入りラインケーブル」を使用した場合、ケーブルによって録音レベルが著しく下がってしまい、適切な録音レベルを得ることができません。

ライン出力端子とライン入力端子を接続する場合には、必ず抵抗が入っていない（パッケージに明記されていない）ラインケーブルをご使用下さい。

2. Digital Music SX のトップパネルに装備されている、「**入力ソースセクター**」を "**LINE 1**" の位置に合わせます。
3. 再生機器の音量を適切に調節し、録音するソースの再生を開始します。
4. Digital Music SX トップパネル上の入力ピーク LED（PEAK LED）が赤く点灯しないで最大の音量となるよう、フロントパネルの「**入力レベル調節ノブ**」を調節します。
5. 再生機器の音量と Digital Music SX の入力レベルのバランスを取る際、できるだけ再生機器側を大きくすることで、ノイズなどの混入を隠すことができます。



▶ **【補足】 Digital Music SX と再生機器とをデジタル接続するには ...**

Digital Music SX は光デジタル入力端子を装備しています。お使いの再生機器に光デジタル出力端子が装備されている場合には、光デジタルケーブルでこれらを接続することで、ノイズの影響を受けにくい、より高品質な録音が可能になります。

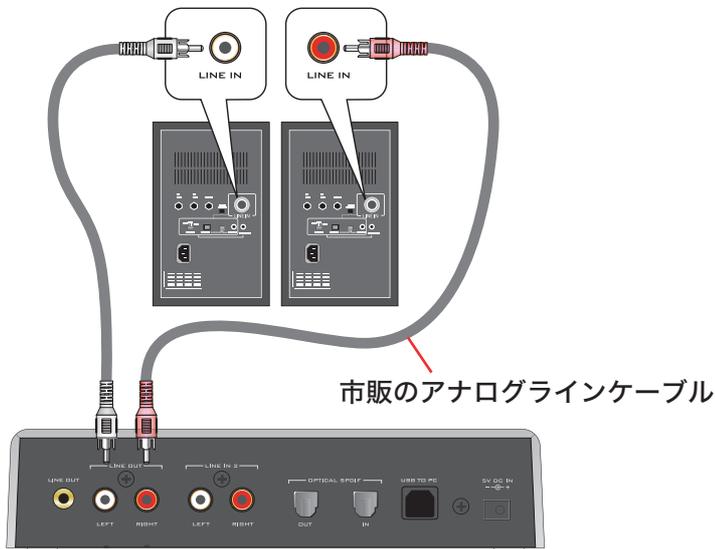
1. 再生機器の**光デジタル出力端子**と Digital Music SX リアパネルの**光デジタル入力端子**を、市販の光デジタルケーブルで接続します。
2. Digital Music SX のトップパネルに装備されている、「**入力ソースセクター**」を "**DIGITAL**" の位置に合わせます

▶ **Digital Music SX とアナログのアクティブスピーカーシステムとを接続する**

Digital Music SX には本体リアパネルに 2 系統のアナログライン出力が装備されています。これらのライン出力端子はそれぞれ同じ信号を出力し、機能的な違いはありませんので、どちらでも使いやすい方をご使用下さい。以下の例では、**RCA アナログ出力端子**を使用します。



1. Digital Music SX リアパネルの**ライン出力端子**（RCA 端子）とアクティブスピーカーシステムのアナログ入力端子とを、市販のアナログラインケーブル（RCA 端子ーアクティブスピーカーシステムの入力端子の形状のプラグ）で接続します。



**注意！**

ライン出力端子とスピーカーシステムのアナログ入力端子を接続する際に、「抵抗入りラインケーブル」を使用した場合、ケーブルによって再生レベルが著しく下がってしまい、適切な再生レベルを得ることができません。

ライン出力端子とアナログ入力端子を接続する場合には、必ず抵抗が入っていない（パッケージに明記されていない）ラインケーブルをご使用下さい。

2. スピーカーシステムの電源を入れ、適切な音量となるようボリュームを調節します。
3. また、Digital Music SX のフロントパネルに装備されているヘッドフォン出力端子にヘッドフォンを接続することで、ライン出力端子からの信号はミュートされ、ヘッドフォンのみでサウンドを確認することができます。

**注意：**特にヘッドフォンやイヤフォンを長時間に渡り大きな音量で使用した場合、聴覚に障害が生じる可能性がありますので、十分注意して下さい。

## Digital Music PX の場合

### ▶ Digital Music PX とアナログ再生機器とを接続する

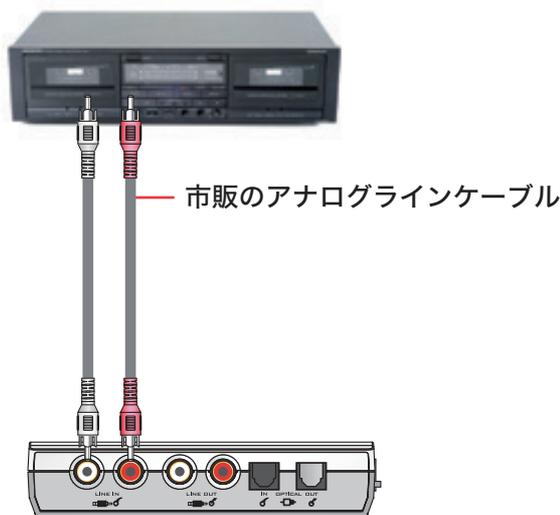
Digital Music PX のサイドパネルには、アナログモードとデジタルモードを切り替える「モード切替スイッチ」が装備されています。以下の例ではアナログ録音を行いますので、この「モード切替スイッチ」をアナログモードの位置に合わせます。なお、アナログモードとデジタルモード時における機能の違いや制限事項については以下の表、および製品に付属のユーザーズガイドを参照して下さい。



インターフェース	アナログモード (DIGITAL/ANALOG)	デジタルモード (DIGITAL ONLY)
ライン出力	使用可	使用不可
ライン入力	使用可	使用不可
ヘッドフォン出力	使用可	使用不可
マイク入力	使用可	使用不可
光デジタル出力	48kHz 固定	44.1、48kHz 切り替え可
光デジタル入力	32、44.1、48kHz	32、44.1、48kHz

1. カセットデッキ、フォノアンプ内蔵アナログレコードプレーヤー等の再生機器に装備されている**ライン出力端子**（通常は RCA 端子）と、Digital Music PX リアパネルの**ライン入力端子**（RCA 端子）とを、市販のアナログラインケーブル（両端 RCA 端子）で接続します。

**注意：** Digital Music PX にはフォノアンプは搭載されていないので、フォノアンプを内蔵していないレコードプレーヤーを直接接続することはできません。別途市販のフォノアンプ搭載プリアンプやミキサーなどをご用意下さい。



**注意！：**

ライン出力端子とライン入力端子を接続する際に、「抵抗入りラインケーブル」を使用した場合、ケーブルによって録音レベルが著しく下がってしまい、適切な録音レベルを得ることができません。

ライン出力端子とライン入力端子を接続する場合には、必ず抵抗が入っていない（パッケージに明記されていない）ラインケーブルをご使用下さい。

2. Digital Music PX のサイドパネルに装備されている、「モード切替スイッチ」を "DIGITAL/ANALOG" の位置に合わせます。
3. Digital Music PX 本体では、アナログ入力信号のレベルを調節することができません。レベルの調節は録音時に録音ソフトウェアで行いますので、実際にソフトウェアを使用した解説に詳しく説明します。

### ▶ 【補足】 Digital Music PX と再生機器とをデジタル接続するには ...

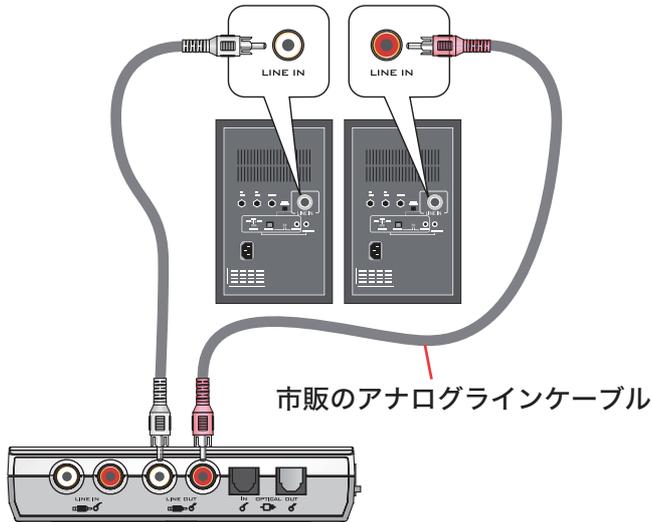
Digital Music PX は光デジタル入力端子を装備しています。お使いの再生機器に光デジタル出力端子が装備されている場合には、光デジタルケーブルでこれらを接続することで、ノイズの影響を受けにくい、より高品質な録音が可能になります。

1. 再生機器の**光デジタル出力端子**と Digital Music PX リアパネルの**光デジタル入力端子**を、市販の光デジタルケーブルで接続します。

### ▶ Digital Music PX とアナログのアクティブスピーカーシステムとを接続する

Digital Music PX のリアパネルに装備されているアナログライン出力は、前述した「モード切替スイッチ」がアナログモード ("DIGITAL/ANALOG") の位置にある場合のみ機能します。デジタルモード ("DIGITAL ONLY") 時には、アナログ入力、およびアナログ出力が行えませんのでご注意ください。

1. Digital Music PX リアパネルの**ライン出力端子** (RCA 端子) とアクティブスピーカーシステムのアナログ入力端子とを、市販のアナログラインケーブル (RCA 端子-アクティブスピーカーシステムの入力端子の形状のプラグ) で接続します。



**注意！**

ライン出力端子とスピーカーシステムのアナログ入力端子を接続する際に、「抵抗入りラインケーブル」を使用した場合、ケーブルによって再生レベルが著しく下がってしまい、適切な再生レベルを得ることができません。

ライン出力端子とアナログ入力端子を接続する場合には、必ず抵抗が入っていない (パッケージに明記されていない) ラインケーブルをご使用下さい。

2. スピーカーシステムの電源を入れ、適切な音量となるようボリュームを調節します。
  3. また、Digital Music PX のフロントパネルに装備されているヘッドフォン出力端子にヘッドフォンを接続することで、ライン出力端子からの信号はミュートされ、ヘッドフォンのみでサウンドを確認することができます。
- ▼ アクティブスピーカーシステムやヘッドフォンでのサウンドの確認は、アナログライン入力の信号のみ可能です。

**注意：**特にヘッドフォンやイヤフォンを長時間に渡り大きな音量で使用した場合、聴覚に障害が生じる可能性がありますので、十分注意して下さい。

## Digital Music LX の場合

### ▶ Digital Music LX とアナログ再生機器とを接続する

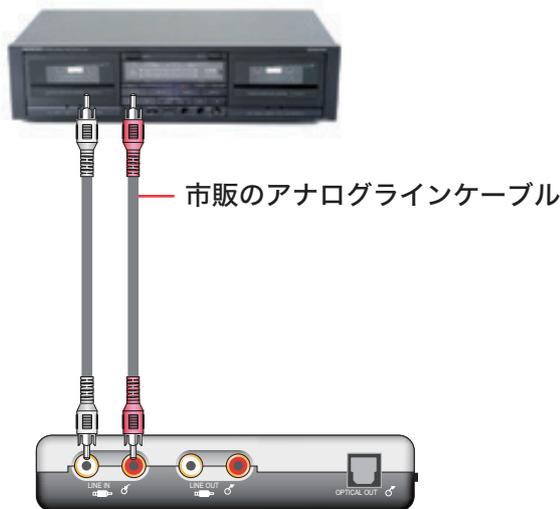
Digital Music LX のサイドパネルには、アナログモードとデジタルモードを切り替える「モード切替スイッチ」が装備されています。以下の例ではアナログ録音を行いますので、この「モード切替スイッチ」をアナログモードの位置に合わせます。なお、アナログモードとデジタルモード時における機能の違いや制限事項については以下の表、および製品に付属のユーザーズガイドを参照して下さい。



インターフェース	アナログモード (DIGITAL/ANALOG)	デジタルモード (DIGITAL ONLY)
ライン出力	使用可	使用不可
ライン入力	使用可	使用不可
ヘッドフォン出力	使用可	使用不可
光デジタル出力	48kHz 固定	44.1、48kHz 切り替え可

1. カセットデッキ、フォノアンプ内蔵アナログレコードプレーヤー等の再生機器に装備されているライン出力端子（通常は RCA 端子）と、Digital Music LX リアパネルのライン入力端子（RCA 端子）とを、市販のアナログラインケーブル（両端 RCA 端子）で接続します。

**注意：** Digital Music LX にはフォノアンプは搭載されていませんので、フォノアンプを内蔵していないレコードプレーヤーを直接接続することはできません。別途市販のフォノアンプ搭載プリアンプやミキサーなどをご用意下さい。



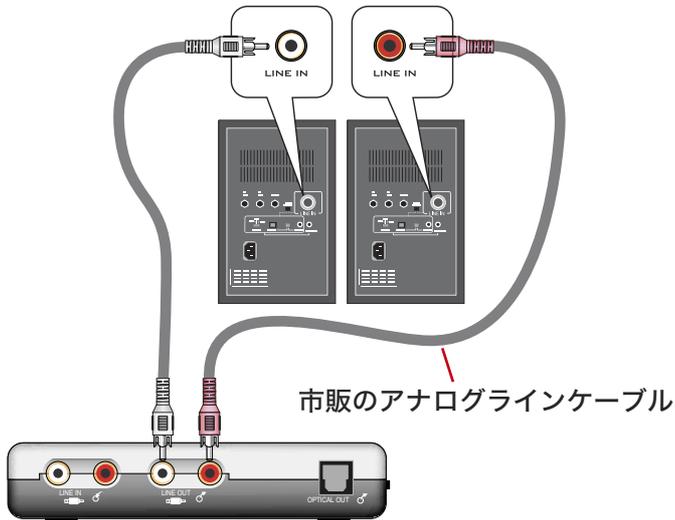
**注意！：**  
ライン出力端子とライン入力端子を接続する際に、「抵抗入りラインケーブル」を使用した場合、ケーブルによって録音レベルが著しく下がってしまい、適切な録音レベルを得ることができません。  
ライン出力端子とライン入力端子を接続する場合には、必ず抵抗が入っていない（パッケージに明記されていない）ラインケーブルをご使用下さい。

2. Digital Music LX のサイドパネルに装備されている、「モード切替スイッチ」を "DIGITAL/ANALOG" の位置に合わせます。
3. Digital Music LX 本体では、アナログ入力信号のレベルを調節することができません。レベルの調節は録音時に録音用ソフトウェアで行いますので、実際にソフトウェアを使用した解説に詳しく説明します。

## ▶ Digital Music LX とアナログのアクティブスピーカーシステムとを接続する

Digital Music LX のリアパネルに装備されているアナログライン出力は、前述した「モード切替スイッチ」がアナログモード ("DIGITAL/ANALOG") の位置にある場合のみ機能します。デジタルモード ("DIGITAL ONLY") 時には、アナログ入力、およびアナログ出力が行えませんのでご注意ください。

1. Digital Music LX リアパネルの**ライン出力端子** (RCA 端子) とアクティブスピーカーシステムのアナログ入力端子とを、市販のアナログラインケーブル (RCA 端子-アクティブスピーカーシステムの入力端子の形状のプラグ) で接続します。



### 注意！

ライン出力端子とスピーカーシステムのアナログ入力端子を接続する際に、「抵抗入りラインケーブル」を使用した場合、ケーブルによって再生レベルが著しく下がってしまい、適切な再生レベルを得ることができません。

ライン出力端子とアナログ入力端子を接続する場合には、必ず抵抗が入っていない（パッケージに明記されていない）ラインケーブルをご使用下さい。

2. スピーカーシステムの電源を入れ、適切な音量となるようボリュームを調節します。
  3. また、Digital Music LX のフロントパネルに装備されているヘッドフォン出力端子にヘッドフォンを接続することで、ライン出力端子からの信号はミュートされ、ヘッドフォンのみでサウンドを確認することができます。
- ▼ アクティブスピーカーシステムやヘッドフォンでのサウンドの確認は、アナログライン入力の信号のみ可能です。

**注意：**特にヘッドフォンやイヤフォンを長時間に渡り大きな音量で使用した場合、聴覚に障害が生じる可能性がありますので、十分注意して下さい。

以上で Digital Music と再生機器・スピーカーシステムとの接続は完了です。

"[アナログ音源の録音とファイルのノイズ除去や自動分割を行う：\(Creative Smart Recorder 編\)](#)" では、Creative Smart Recorder を使用した録音と、録音したファイルのノイズ除去・自動トラック分割の方法を解説していますので、ぜひ合わせてご参照下さい。

また "[カセットテープなどのアナログ音源を録音しオリジナルの音楽 CD を作成する：\(Creative MediaSource 編\)](#)" では、Creative MediaSource を使用した録音からオリジナル音楽 CD の作成方法を解説しています。

# アナログ音源の録音と ファイルのノイズ除去や自動分割を行う： (Creative Smart Recorder 編)

## Creative Smart Recorder

本章では、Digital Music に付属する Creative Smart Recorder (以下 Smart Recorder) ソフトウェアを使用した録音機能と、録音したファイルの分割方法について解説します。なお、ご購入いただいた Digital Music に付属しているインストール CD-ROM に Smart Recorder が収録されていない場合、クリエイティブの Web サイト (<http://jp.creative.com>) のカスタマーサポート内「ダウンロード」ページでダウンロード可能です。

**Note:** お使いの Smart Recorder のバージョンによっては、本ガイドで解説している画面図と一部異なる個所がありますが、基本機能に違いはありません。

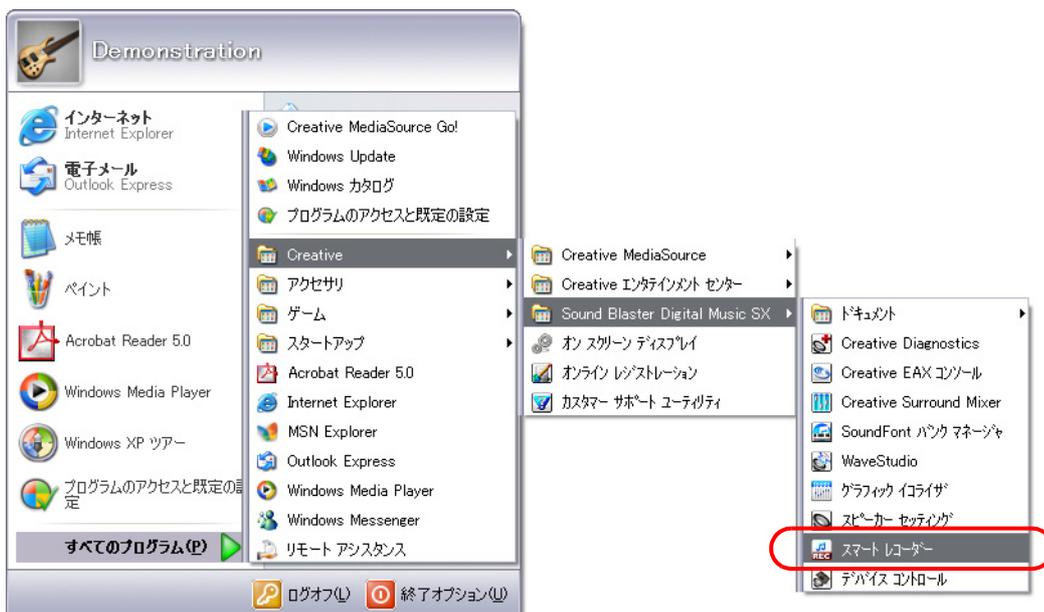
Smart Recorder は録音に最適なソフトウェアで、録音から保存までのプロセスをステップごとに設定するウィザード形式のメニューを備え、初めての方でも気軽に録音できます。入力音を検知して自動的に録音を開始するシンクロ録音機能やスケジュール録音機能、複数のトラックにまたがったファイルの無音部を検知してトラックを分割するトラック分割機能など、音楽録音に便利な様々な機能を搭載しています。また Creative MediaSource で録音したファイルを Smart Recorder でノイズ除去などの処理を行うことも可能です。MediaSource の詳しい使い方については "[カセットテープなどのアナログ音源を録音し オリジナルの音楽 CD を作成する： \(Creative MediaSource 編\)](#)" を参照して下さい。

なお Windows 上での基本的な設定については "[作業を始める前に：準備編](#)" 内の "[Windows コントロールパネルの設定](#)" 11 ページで、他の機器との接続については "[他の機器との接続](#)" 13 ページで解説していますので、ご確認下さい。

## Smart Recorder で録音する

### ▶ Smart Recorder を起動する

1. Windows タスクバー上の [スタート] ボタン (  スタート ) > [すべてのプログラム / プログラム] > [Creative] > [Sound Blaster Digital Music SX/Sound Blaster] > [スマートレコーダー] の順にクリックして Smart Recorder を起動します。

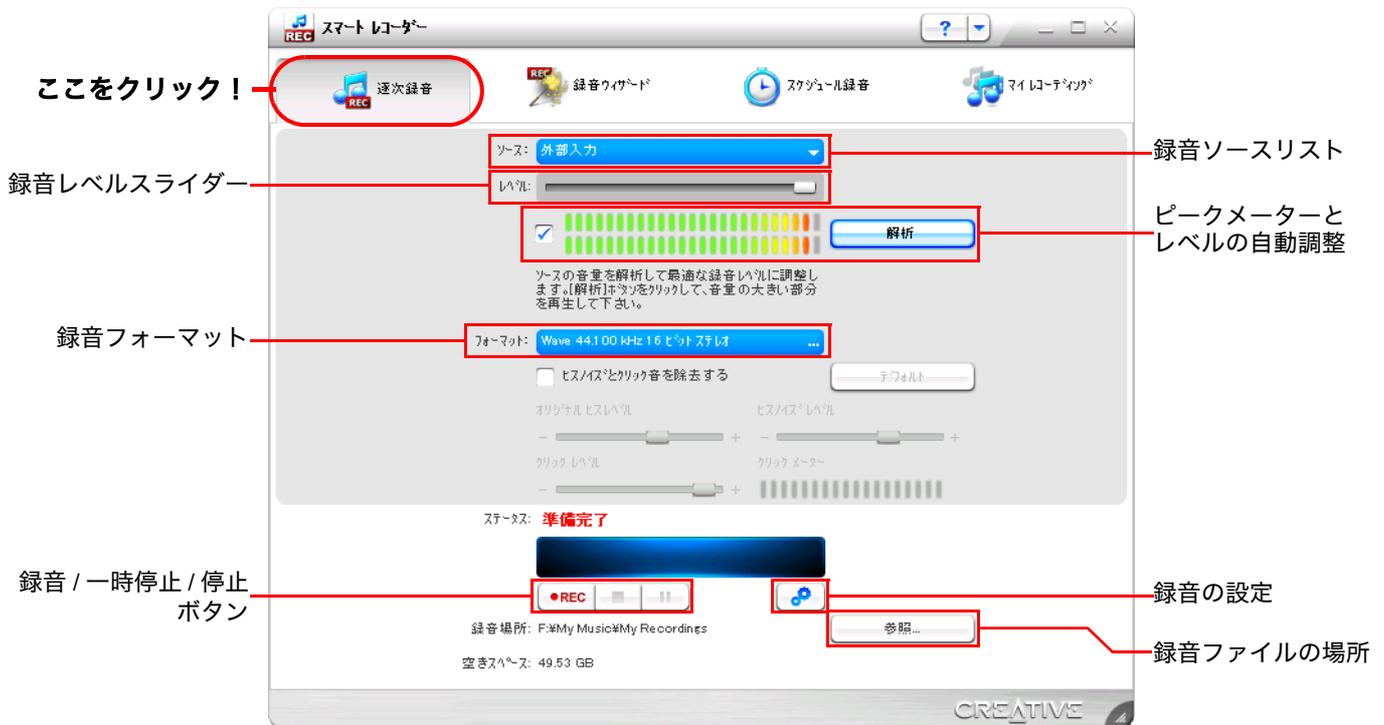


2. Smart Recorder は、録音方法に合わせて画面上部のタスクバーに4つのパネルを装備しています。以降の例では、一番左の【逐次録音】パネルと、左から2番目の【録音ウィザード】パネルのステップに従っての録音方法を解説します。



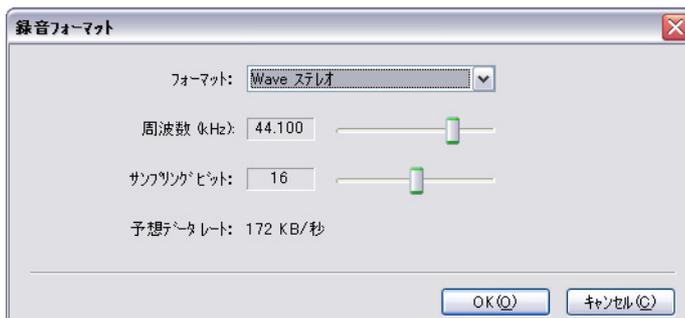
## 【逐次録音】パネル

### ▶ 【逐次録音】パネルを使用して録音する



## 録音の設定

3. 【録音ソース】リストから、録音するソースとしてアナログ機器を接続した入力端子 (Digital Music SX では、アナログ / デジタル接続とも "外部入力", Digital Music PX/LX ではアナログ接続の場合 "ラインイン", デジタル接続の場合 "SPDIF イン") を選択します。
4. 【録音フォーマット】ボタンをクリックすることで、録音したファイルのファイルフォーマットを設定する「録音フォーマットの変更」ウィンドウが表示されます。音楽 CD を作成するには、"Wave、ステレオ" フォーマット、サンプリング周波数は "44.100"、サンプリングビットは "16" ビットの設定が最適です。



音楽 CD を作成したり、トラックの分割を行う場合、

- フォーマット：Wave、ステレオ
- サンプリング周波数：44.100
- サンプリングビット：16

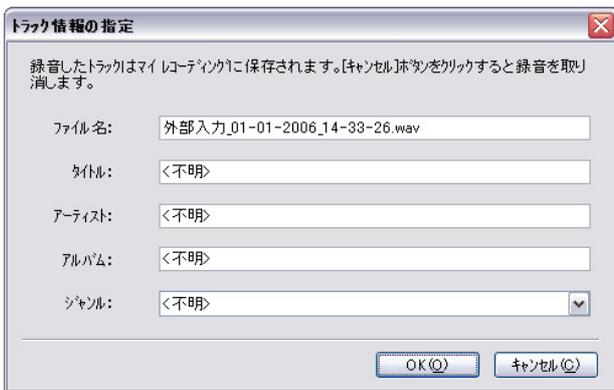
を選択します。

5. [参照] ボタンをクリックして、録音したファイルをパソコン内に保存する場所を設定します。初期設定では [マイドキュメント] > [マイミュージック] > [My Recordings] フォルダ (通常は [C ドライブ : \Documents and Settings \<ユーザー名> \My Documents \My Music \My Recordings]) になります。
6. [録音レベルスライダー] を動かして、一番右側までマウスでドラッグし、**録音レベルを最大**に調節します。もし録音レベルを最大にしても、十分な音量が得られない場合、再生機器側の出力レベルを調整して下さい。
7. [ピークメーター有効] ボタンをクリックしてチェックを入れることで、ピークメーターで再生中の録音ソースの音量レベルを確認することが出来ます。
8. [解析] ボタンをクリックして、録音するソースの一番音量の大きい個所を再生します。録音ソースのレベルが大きすぎる場合には、自動的に録音レベルスライダーが動いて録音レベルが下がり適切な録音レベルになります。
9. 適切な録音レベルの解析が終了したら、[解析終了] ボタンをクリックします。

以上で録音のための設定は完了です。またピークメーターが動かない場合、["他の機器との接続" 13 ページ](#)を参照して Digital Music と機器との接続が正しいかどうか、また再生機器を接続した入力端子が録音ソースとして選択されているかどうかを再度確認して下さい。

## 録音

10. [録音] ボタンをクリックすることで録音が始まります。録音開始後にアナログ機器の再生を開始します。録音中は、[ステータス] 表示が "録音準備完了" から "録音中 ..." へと変化します。
11. 録音したい分の再生が終わったら、[停止] ボタンをクリックします。下図の画面が表示されます。



この画面では、以下の項目を設定可能です：

- **ファイル名**.....実際にパソコン内に保存されるファイルの名称になります。初期設定では録音を行った日時が入力されていますが、後ほど混乱しないように分かりやすい名前を付けることをお勧めします。
  - **タイトル**.....[マイレコーディング] パネル上で表示される曲のタイトルになります。
  - **アーティスト**....[マイレコーディング] パネル上で表示されるアーティスト名になります。
  - **アルバム**.....[マイレコーディング] パネル上で表示されるアルバム名になります。
  - **ジャンル**.....[マイレコーディング] パネル上で表示される音楽ジャンルになります。
12. 上記の各項目を入力したら [OK] をクリックすることで、録音が完了します。画面は [マイレコーディング] パネルが表示されます。このパネルの詳細は後述します。

また Smart Recorder は、再生信号のレベルに応じて、自動的に録音開始 / 停止を行うことも可能です。

[録音の設定] ボタンをクリックして以下の設定を行います：



レベルに応じて自動的に録音を開始するには、ここをクリックしてチェックを入れる

レベルに応じて自動的に録音を停止するには、ここをクリックしてチェックを入れ、無音と見なす秒数を入力

ここで、自動録音のトリガーとなるレベルを設定 "現在の音量レベルを測定する" をチェックすることで、再生中のレベルを確認できます

## 【録音ウィザード】 パネル

【録音ウィザード】 パネルでは、ステップごとに用意された画面に従って録音からファイルの保存までを行うことができます、非常に便利な機能です。またこのウィザードでは、カセットテープ1本やレコード1枚を丸々録音して、自動的に分割、およびヒスノイズなどを除去することができますので、お持ちのアナログライブラリーの録音には最適です。

### ▶ 【録音ウィザード】 パネルを使用して録音する

1. Smart Recorder 画面上部のタスクバーから【録音ウィザード】 パネルをクリックします。



## ステップ 1/7: 録音レベルの調整

このステップでは、録音ソースの設定と録音レベルの調整を行います。

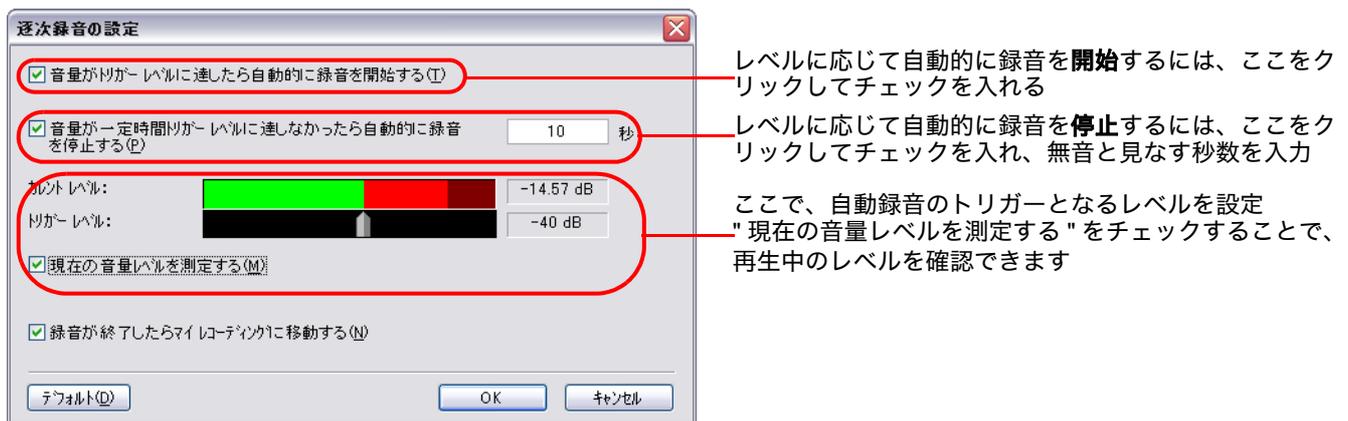
2. 【録音ソース】 リストから、録音するソースとしてアナログ機器を接続した入力端子 (Digital Music SX では、アナログ / デジタル接続とも "外部入力"、Digital Music PX/LX ではアナログ接続の場合 "ラインイン"、デジタル接続の場合 "SPDIF イン") を選択します。
3. 【録音レベルスライダー】 を動かして、一番右側までマウスでドラッグし、**録音レベルを最大**に調節します。もし録音レベルを最大にしても、十分な音量が得られない場合、再生機器側の出力レベルを調整して下さい。
4. 【ピークメーター有効】 ボタンをクリックしてチェックを入れることで、ピークメーターで再生中の録音ソースの音量レベルを確認することが出来ます。
5. 【解析】 ボタンをクリックして、録音するソースの一番音量の大きい個所を再生します。録音ソースのレベルが大きすぎる場合には、自動的に録音レベルスライダーが動いて録音レベルが下がり適切な録音レベルになります。
6. 適切な録音レベルの解析が終了したら、【解析終了】 ボタンをクリックします。
7. レベルの調整が完了したら【次へ】 ボタンをクリックします。

## ステップ 2/7: 録音時間の指定

このステップでは、録音時間と録音したデータの作業ファイルの保存場所を設定します。



8. [録音時間] の各ボックスで録音する時間の上限を設定します。[録音可能時間] には、ハードディスクの空き容量に応じた時間が自動的に表示されますが、ソフトウェア上の仕様により、3時間以上の録音は行えません。従って最大でも3時間以内に設定して下さい。
9. [自動録音の設定] ボタンをクリックすることで、再生信号のレベルに応じて、自動的に録音開始 / 停止が可能になります。



10. [参照] ボタンをクリックして、作業ファイルの保存場所を設定したら、[録音] ボタンをクリックすることで、録音が始まります。

▼ 注意：[録音ウィザード] ではステップ途中でファイルの分割やクリーンアップを行い、最後の段階でファイルフォーマットを指定する都合上、作業ファイルを使用します。このため、最終的に保存するファイルと、作業ファイルの保存場所を同一ドライブにする際は、保存ドライブに作業領域と最終保存ファイルのための十分な空きディスクスペースが必要となります。最終ファイルの保存場所は空きディスクスペースに注意して指定して下さい。

## ステップ 3/7: トラックの録音



11. 録音するソースの再生を開始します。
12. **【経過時間】** に、現在の録音時間が表示されます。また **【残り時間】** には、指定された録音時間までの残り時間が表示されます。
13. 録音したい分の再生が終わったら、画面下部の **【停止】** ボタンをクリックします。

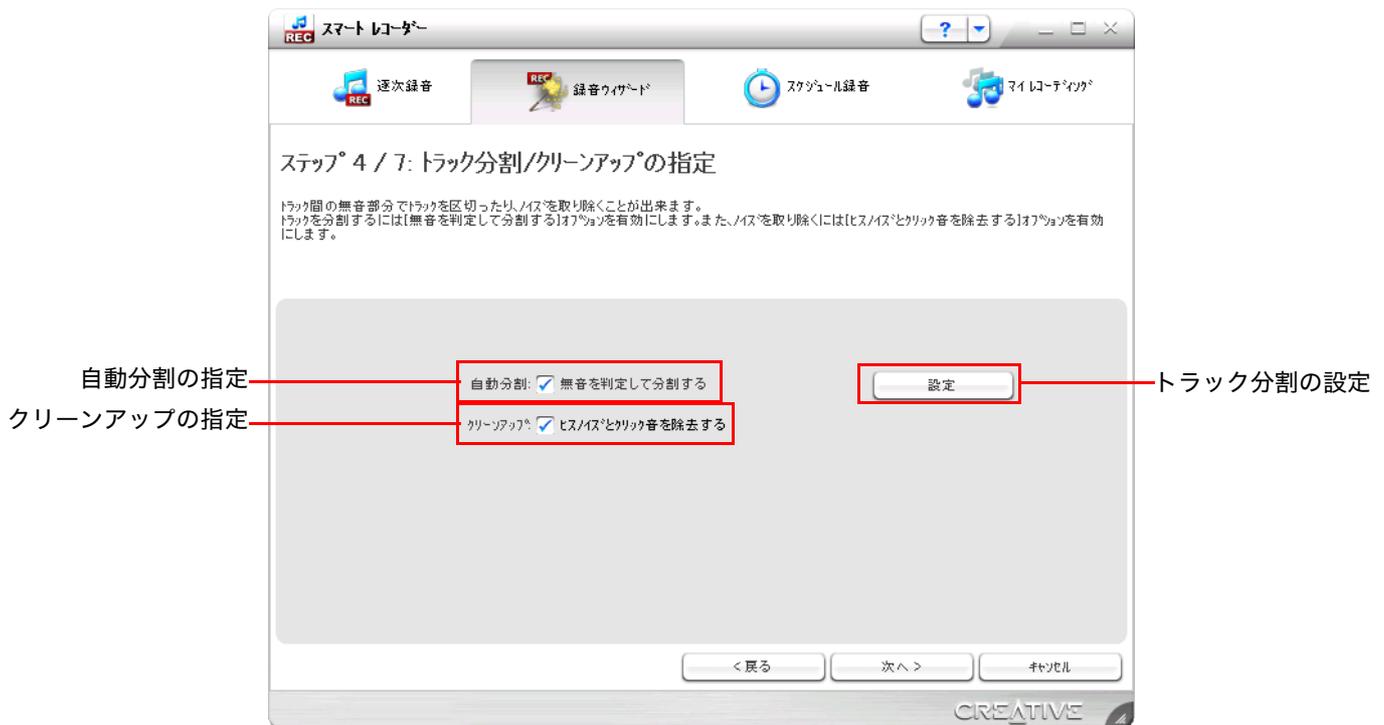
## ステップ 4/7:トラック分割 / クリーンアップの指定

このステップでは、自動的にファイル内の無音部分を検出してトラックを分割するトラック分割と、録音したデータのノイズを取るクリーンアップを行うかどうかを指定します。

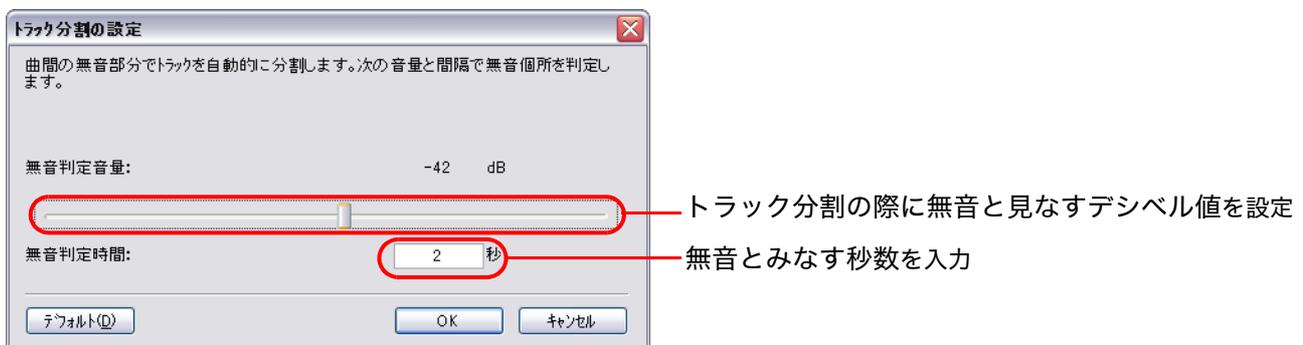
### 録音した音楽データはどのように保存される？

Rmart Recorder で 1 回録音すると、録音したファイルは 1 つのファイルとして保存されます。カセットテープ 1 本やレコード 1 枚を録音した場合は 1 枚分の音楽が 1 つのファイルになります。このため、カセットテープやレコードに収録されている 1 曲ごとに 1 つのファイルを作成するには、曲と曲の間を探し、1 曲ずつ分割しなければなりません。

Smart Recorder の自動トラック分割機能を使うことで、自動的に曲間の無音部分を検知してデータを分割し、1 曲ずつファイルを作成することができます。



14. [トラック分割の設定] ボタンをクリックすることで下図の画面が表示されます。



15. トラック分割の際に無音と見なすデシベル値をスライダーで設定し、[無音判定時間] に無音とみなす秒数を指定したら、[OK] ボタンをクリックしてこの設定画面を閉じます。

16. それぞれ実行したい機能にチェックを入れたら [次へ] ボタンをクリックします。

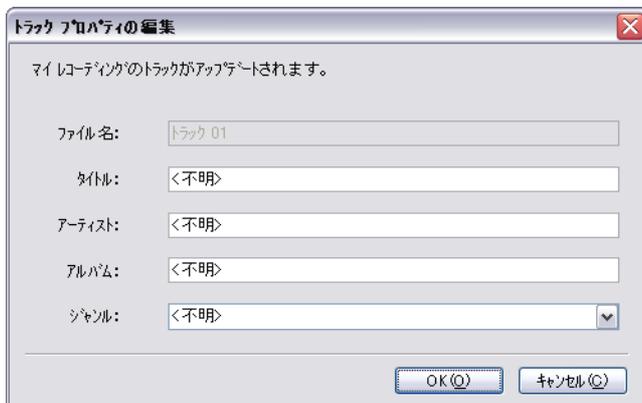
## ステップ 5/7: トラックの自動分割

ステップ 4 でトラックの自動分割を指定していない場合、このステップは通過します。

ここでは、ステップ 4 で指定した設定に従って録音したファイルが各トラックに分割されます。トラック内で無音部分が検出できなかった場合は、単一のトラックとしてリストに表示されます。上部のリストからトラックを選択して [再生] ボタンをクリックすることで、それぞれのトラックを確認することができます。



17. トラック分割が適切に為されていない場合、[戻る] ボタンをクリックしてステップ 4 に戻り、再度トラック分割の設定を調節します。
18. トラックの分割および結合を手動で行うこともできます。本来 1 つのトラックが複数に分割されてしまっている場合には、リスト上で連続したトラックを選択し、[結合] ボタンをクリックします。複数のトラックを選択するには、コンピュータキーボードの Shift キーを押しながら各トラックをクリックします。
19. 複数のトラックが 1 つのトラックになってしまっている場合には、[プログレススライダー] を分割したい位置に移動して [分割] ボタンをクリックします。また画面右下の [サイレンスカットオフスライダー] でトラック内の無音とみなす音量を再設定することができます。
20. またリスト内のトラックを右クリックし、表示される "トラックプロパティの編集" を選択することで、各トラックの情報を変更することができます。



この画面では、以下の項目を設定可能です：

- **タイトル**.....[マイレコーディング] パネル上で表示される曲のタイトルになります。
- **アーティスト**...[マイレコーディング] パネル上で表示されるアーティスト名になります。
- **アルバム**.....[マイレコーディング] パネル上で表示されるアルバム名になります。
- **ジャンル**.....[マイレコーディング] パネル上で表示される音楽ジャンルになります。

21. それぞれのトラックの分割が適切に完了できたら、[次へ] ボタンをクリックします。

## ステップ 6/7: トラックのクリーンアップ

ステップ 4 でトラックのクリーンアップを指定していない場合、このステップは通過します。

ここでは、録音したファイルのヒスノイズ（カセットテープに含まれる "サー" や "シャー" という高周波ノイズ）やクリック音（レコード盤のチリなどによる "ブツブツ" 音）を除去することができます。上部のリストからトラックを選択して [再生] ボタンをクリックすることで、それぞれのトラックを確認することができます。

スマートレコーダー

逐次録音 録音ウィザード スケジュール録音 マイレコーディング

ステップ 6 / 7: トラックのクリーンアップ

クリーンアップするトラックを指定します。トラックを選択して[再生]ボタンをクリックするとノイズの取り除かれたアウトを試聴出来ます。元来のヒスノイズのレベルや、除去するヒスノイズ、クリック音のレベルを各スライダーで調整することも出来ます。[次へ]ボタンをクリックすると設定を完了します。

ファイル名	長さ
<input checked="" type="checkbox"/> トラック 01	00:00:01
<input checked="" type="checkbox"/> トラック 02	00:05:40
<input checked="" type="checkbox"/> トラック 03	00:06:34
<input checked="" type="checkbox"/> トラック 04	00:04:38
<input checked="" type="checkbox"/> トラック 05	00:07:06
<input checked="" type="checkbox"/> トラック 06	00:00:05

分割されたトラックのリスト

00:01:32

ヒスノイズとクリック音を除去する

ヒスノイズレベル  
スライダー

オリジナルヒスノイズ  
レベルスライダー

クリックレベル  
スライダー

停止 / 再生 / 一時停止  
ボタン

音量スライダー

CREATIVE

22. ファイルにヒスノイズやクリック音が含まれてしまっている場合、[ヒスノイズとクリック音を除去する] チェックボックスをクリックしてチェックを入れます。
23. [クリックレベルスライダー] を動かしてクリック音の除去度合いを調節します。
24. [ヒスノイズレベルスライダー] を "30%" 前後の位置に、[オリジナルヒスノイズスライダー] を左端に調節します。
25. トラックを再生しながらヒスノイズが最小になるレベルまで [オリジナルヒスノイズスライダー] をゆっくりと右に動かします。
26. 必要に応じて、さらにヒスノイズが低減されるレベルにまで [ヒスノイズレベルスライダー] を少しずつ右に動かします。
27. トラックのヒスノイズやクリック音が除去できたら [次へ] ボタンをクリックします。

## ステップ 7/7: トラックの保存

ここでは録音し、分割/クリーンアップしたトラックの最終的な保存フォーマットを指定します。



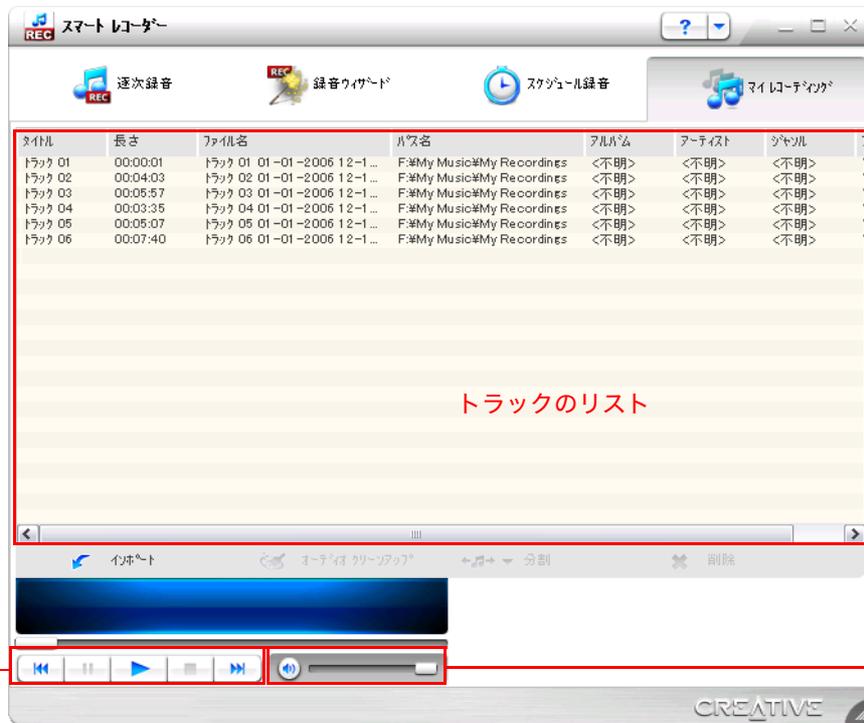
28. 音楽 CD を作成するには、"WAV、ステレオ" フォーマット、サンプリング周波数 "44.100"、サンプリングビット "16" ビットの設定が最適です。
29. [参照] ボタンをクリックして録音したファイルの保存場所を指定して、[次へ] ボタンをクリックします。
30. 分割された各トラックが保存されます。全てのトラックが保存されたら [完了] ボタンをクリックすることで、[録音ウィザード] は完了です。画面には [マイレコーディング] パネルが表示されます。

## トラックのノイズ除去や自動分割を行う

### [マイレコーディング] パネル

[マイレコーディング] パネルでは、録音したファイルの試聴とトラックの分割・クリーンアップでノイズ除去が可能です。また他のソフトウェアなどで録音した **Wave** ファイルでも同様にクリーンアップおよび分割を行えます。

▼ **注意**：Smart Recorder でトラック分割を行う場合、Wave フォーマットで保存されたファイルである必要があります。その他のファイルフォーマットは、Smart Recorder でトラックを分割することはできません。



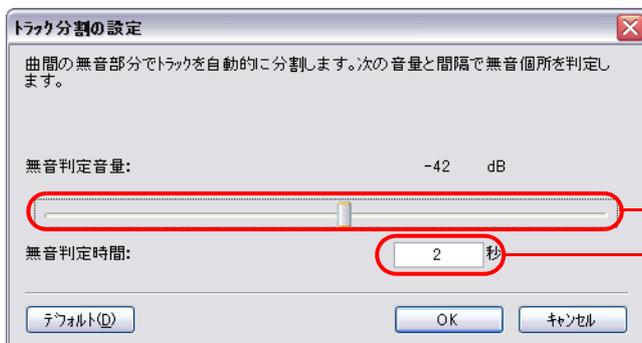
戻し / 停止 / 再生 /  
一時停止 / 送るボタン

音量スライダー

### ▶ トラック分割の設定を行う

[マイレコーディング] パネルからトラックの自動分割を行う際の、分割設定を行います。

1. 自動分割を行う場合、Smart Recorder 画面下部にある各メニューアイテムから、[分割] ボタンの右側をクリックし、[トラック分割の設定] 画面を表示します。



トラック分割の際に無音と見なすデシベル値を設定

無音とみなす秒数を入力

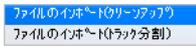
2. トラック分割の際に無音と見なすデシベル値をスライダーで設定し、[無音判定時間] に無音とみなす秒数を指定したら、[OK] ボタンをクリックしてこの設定画面を閉じます。

## ▶ 他のソフトウェアで録音したファイルをインポートする

1. Smart Recorder 画面下部にある各メニューアイテムから、[インポート] ボタンをクリックします。



2. 表示されるメニューから、"クリーンアップ"、"トラック分割" の何れか行いたい方を選択します。



3. [ファイルのインポート] 画面で、他のソフトウェアで録音・保存したファイルを選択します。

## クリーンアップ

4. "クリーンアップ" を選択した場合、下図の画面が表示されます：



5. この画面の操作については ["ステップ 6/7: トラックのクリーンアップ" 27 ページ](#) を参照して下さい。

## トラック分割

6. "トラック分割" を選択した場合、下図の画面が表示されます：



7. この画面の操作については ["ステップ 5/7: トラックの自動分割" 26 ページ](#) を参照して下さい。

## ▶ [逐次録音] パネルで録音したファイルのクリーンアップ / 自動分割を行う

1. トラックのリストからクリーンアップ、または自動分割を行いたいトラックを選択します。

### クリーンアップ

2. クリーンアップを行う場合、Smart Recorder 画面下部にある各メニューアイテムから、[オーディオクリーンアップ] ボタンをクリックします。



3. [オーディオクリーンアップ] 画面が表示されます。なお、この画面は前ページのクリーンアップ画面と同一であり、実際の操作については "[ステップ 6/7: トラックのクリーンアップ](#)" [27 ページ](#)と全く同じになります。設定方法の詳細は、[27 ページ](#)を参照して下さい。

### トラック分割

4. トラックの自動分割を行う場合、[分割] ボタンをクリックします。



5. 選択したファイルが、先に設定したトラック分割の設定に従って各トラックへと分割され、[トラックの分割画面] が表示されます。なお、この画面は前ページのトラック分割画面と同一であり、実際の操作については "[ステップ 5/7: トラックの自動分割](#)" [26 ページ](#)と全く同じになります。設定方法の詳細は、[26 ページ](#)を参照して下さい。

## ▶ トラックを試聴する

1. 上部のトラックのリストから、確認したいトラックをそれぞれクリックして選択します。
2. [再生] ボタンをクリックすることで、再生が始まり内容を確認することができます。

以上で Smart Recorder を使用した録音手順は終了です。本ガイドでは解説していませんが、Smart Recorder にはタイマーを利用したスケジュール録音機能も搭載されています。また Smart Recorder 画面右上の [ヘルプ] メニューには、様々な機能の詳しい解説や手順が記載されていますので、一読されることをお勧めします。

なお、"[カセットテープなどのアナログ音源を録音し、オリジナルの音楽 CD を作成する： \(Creative MediaSource 編\) 33 ページ](#)"では、Creative MediaSource を使用した録音と、録音したファイルを用いたオリジナル音楽 CD の作成方法を解説していますので、合わせてご参照下さい。



# カセットテープなどのアナログ音源を録音し オリジナルの音楽 CD を作成する： (Creative MediaSource 編)

## Creative MediaSource

ここでは、Digital Music に付属する Creative MediaSource (以下 MediaSource) ソフトウェアを使用した録音と、録音したファイルを使用したオリジナルの音楽 CD の作成方法について解説します。

MediaSource プレイヤー / オーガナイザは、デジタルミュージックを再生、作成、編成、および転送するためのオールインワンデジタルミュージックセンターです。音楽 CD や MP3、WMA ファイル、Video CD 等のさまざまなメディアファイルの再生、音楽 CD から WAVE、WMA ファイルの作成、アナログ / デジタルソースの録音、再生中の楽曲の MD への録音等が行えます。また [コンサートホール]、[大聖堂] といった環境の臨場感を作り出す EAX エフェクト、MP3 や WAVE ファイルの再生速度を変えるタイムスケーリング、アナログソースからの録音時に混入するノイズを低減するオーディオクリーンアップにも対応しており、Digital Music シリーズの機能を最大限活かすことができます。

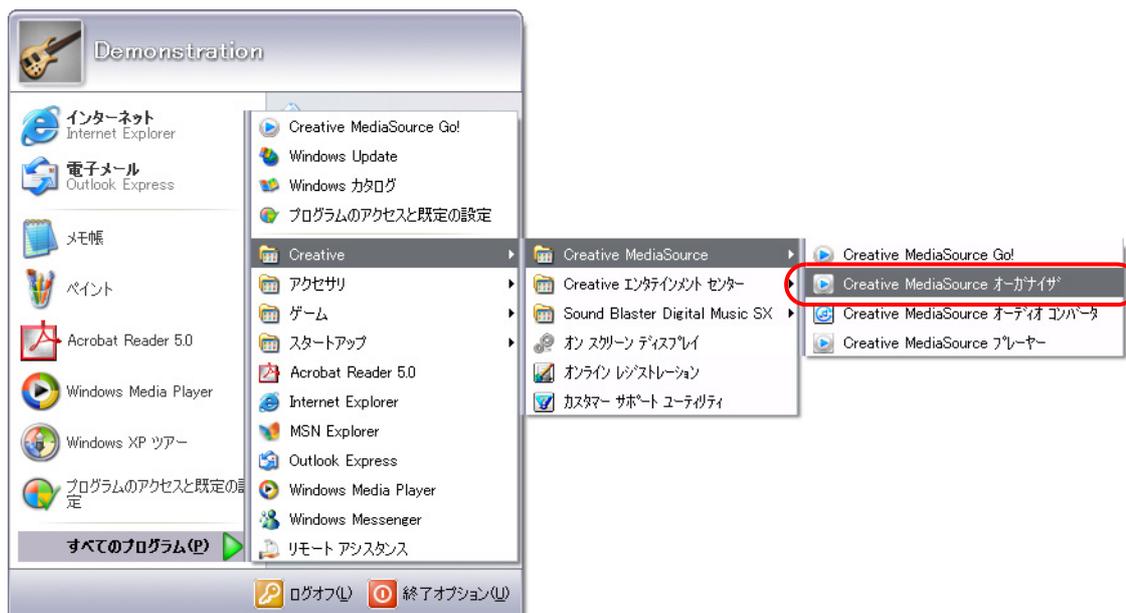
**Note:** お使いの MediaSource のバージョンによっては、本ガイドで解説している画面図と一部異なる箇所がありますが、基本機能に違いはありません。

なお Windows 上での基本的な設定については "[作業を始める前に：準備編](#)" 内の "[Windows コントロールパネルの設定](#)" 11 ページで、他の機器との接続については "[他の機器との接続](#)" 13 ページで解説していますので、ご確認下さい。

## MediaSource で録音する

### ▶ MediaSource を起動する

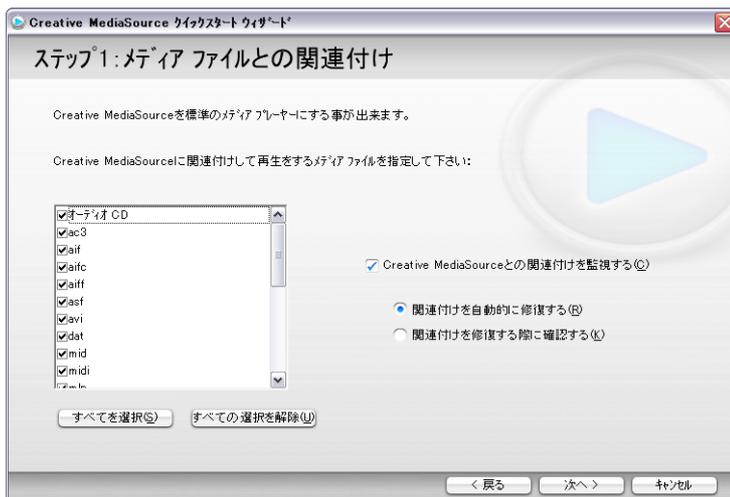
1. Windows タスクバー上の [スタート] ボタン (  スタート ) > [すべてのプログラム / プログラム] > [Creative] > [Creative MediaSource] > [Creative MediaSource オーガナイザ] の順にクリックして **MediaSource オーガナイザ** を起動します。



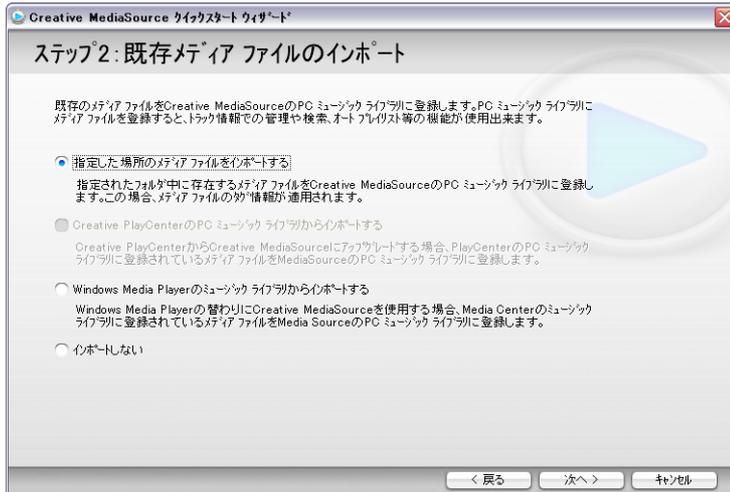
2. 初めて MediaSource を起動した場合、MediaSource で直ぐに再生できるよう、メディアファイルの関連付けと、既存のメディアライブラリーをインポートするためのウィザードが起動します。



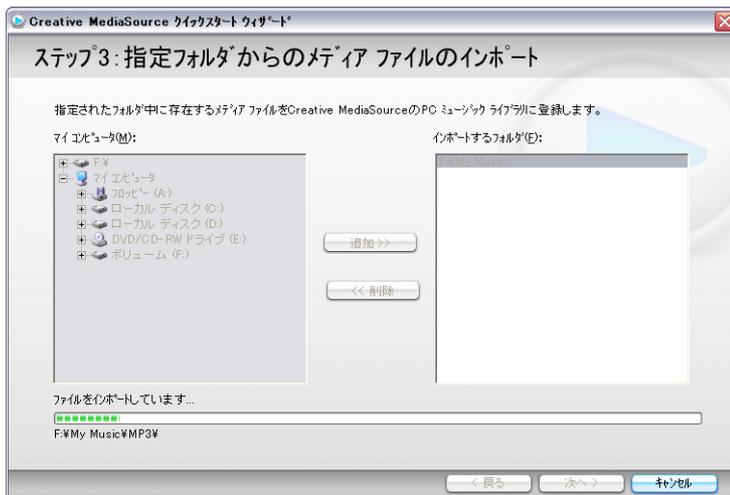
3. 上図の画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。下図の画面で、様々なメディアファイルを MediaSource に「関連付け」します。左側のリスト内でチェックをつけたメディアファイルは、ダブルクリックすることで、MediaSource で再生されるようになります。関連付けを行いたいメディアファイルを指定したら [次へ] をクリックします。



4. 次の画面では、既存のメディアライブラリーをインポートする / しないを設定します。メディアファイルをインポートすることで、「PC ミュージックライブラリ」として MediaSource 上に登録されます。この画面では、以下のオプションから選択します。
- **指定した場所のメディアファイルをインポートする：**  
パソコン内の任意の場所にあるメディアファイルをインポートする場合は、このオプションを選択して [次へ] をクリックします。
  - **Creative PlayCenter の PC ミュージックライブラリからインポートする：**  
Creative PlayCenter ソフトウェアがインストールされている場合に、このオプションが選択可能になります。PlayCenter ソフトウェアで PC ミュージックライブラリを構築している場合、このオプションを選択して [次へ] をクリックします。
  - **Windows Media Player のミュージックライブラリからインポートする：**  
既に Windows Media Player でミュージックライブラリを構築している場合、そのデータベースを MediaSource に取り込むことも可能です。この場合、このオプションを選択し、[次へ] をクリックします。
  - **インポートしない：**  
メディアファイルのインポートを行わない場合、このオプションを選択して [次へ] をクリックします。



5. ステップ4で"指定した場所のメディアファイルをインポートする"を選択した場合、下図の画面が表示されますので、パソコン内のメディアファイルがある場所を選択したら画面中央の【追加】をクリックして、インポートするフォルダに指定します。インポートしたい全ての場所（フォルダ）を追加したら【次へ】をクリックすることで、インポートが開始されます。



6. メディアファイルのインポートが終了（または"インポートしない"を選択した場合）したら、下図の画面が表示され、【完了】ボタンをクリックすることでウィザードが終了します。その後自動的に MediaSource が起動します。



## Creative MediaSource オーガナイザ

ソースウィンドウ      タスクバー      メニューバー

再生リストウィンドウ

コンテンツウィンドウ

再生リストボタン

EAX ボタン

スマートボリューム マネジメントボタン

クロスフェード ボタン

タイムスケーリング 有効 / 倍率スライダー

再生モードボタン

ミキサーボタン

ボリューム スライダー

### プレイヤー / オーガナイザに切り替えボタン

## Creative MediaSource プレイヤー

ステータスエリア

開くボタン

再生リストボタン

録音 / 録音 オプションボタン

トラック戻し ボタン

一時停止 ボタン

再生 ボタン

停止 ボタン

トラック送り ボタン

録音レベル スライダー

録音ステータス表示時

MediaSource は左下にある [プレイヤー / オーガナイザに切り替え] ボタンで、ミュージックコレクションの詳細な管理が可能な「MediaSource オーガナイザ」ウィンドウと「MediaSource プレイヤー」ウィンドウを切り替えることができます。

7. ソースウィンドウで "PC ミュージックライブラリ" を選択することで、ステップ 5 でインポートしたメディアファイルがコンテンツウィンドウに一覧表示されます。

## ▶ MediaSource で録音を行う

### 録音ステータスの表示

アナログライン入力端子に接続した機器からの信号を録音するには、まず最初に MediaSource のステータスエリアの表示を録音用に切り替えます。MediaSource 画面上部のメニューバーから [表示] メニュー > [録音ステータス] を選択します。または、MediaSource 画面下部の [録音オプション] ボタンから [録音ステータスの表示] を選択します。



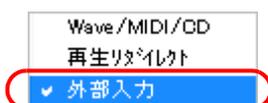
下図のようにステータスエリアの表示が、録音の際の様々な情報や設定の表示へと変化します。



### 録音の設定

- 録音ステータス表示とすることで、MediaSource 画面下部の [ボリュームスライダー] に並んで [録音レベルスライダー] が表示されます。このスライダーを一番右側までマウスでドラッグし、**録音レベルを最大**に調節します。もし録音レベルを最大にしても、十分な音量が得られない場合、再生機器側の出力レベルを調整して下さい。
- ステータスエリアの**録音ソースドロップダウンリスト**をクリックし、録音するソースとしてアナログ機器を接続した入力端子 (Digital Music SX では "外部入力"、Digital Music PX/LX ではアナログ接続の場合は "ラインイン"、デジタル接続の場合は "SPDIF イン") を選択します。

#### Digital Music SX



#### Digital Music PX/LX



**Digital Music SX では以下の項目から録音するソースを選択できます：**

- **Wave/MIDI/CD** .....パソコン上で再生している左記のサウンド全てを録音します。
- **再生リダイレクト** パソコン上で再生しているサウンド全てを録音します。パソコン上のサウンドと Digital Music SX に入力している信号とをミックスして録音する際には、このオプションを選択します。
- **外部入力** ..... Digital Music SX のマイク / アナログ / デジタル入力端子に接続した信号のうち、[入力ソースセクター] で選択した信号を録音します。

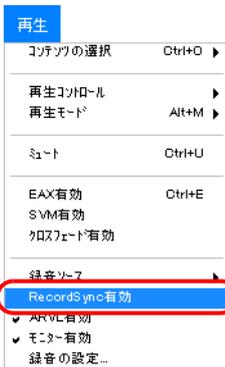
**Digital Music PX/LX では以下の項目から録音するソースを選択できます：**

- **Wave/MIDI/CD** .....パソコン上で再生している左記のサウンド全てを録音します。
- **ラインイン** ..... Digital Music PX/LX のアナログ入力端子に接続した信号を録音します。
- **マイク** ..... Digital Music PX のマイク入力端子に接続した信号を録音します (このオプションは Digital Music LX では選択できません)。
- **S/PDIF イン** ..... Digital Music PX の光デジタル入力端子に接続した信号を録音します (このオプションは Digital Music LX では選択できません)。

3. ステータスエリアの [録音フォーマット] 部分をクリックすることで、録音したファイルのファイルフォーマットを設定する「録音フォーマットの変更」ウィンドウが表示されます。音楽 CD を作成するには、「WAV、ステレオ」フォーマット、サンプリング周波数は「44.100kHz」、サンプリングビットは「16」ビットの設定が最適です。



4. MediaSource 画面上部のメニューバーから [再生] メニュー > [Record Sync 有効] をクリックして **チェックを外します**。これは録音開始と同時に再生リスト内のファイルの再生を始める機能であり、例えば MIDI ファイルを WAVE ファイルなどで録音し直す場合などには大変便利な機能ですが、本ガイドで解説している外部からの信号を録音する際には有効にする必要はありません。必ず **チェックが外れていることを確認**して下さい。



[再生] メニューの [Record Sync 有効] の **チェックが外れていることを確認**

5. ステータスエリアの [ARVL] のチェックマークをクリックして、チェックを入れます。これにより、入力された信号レベルが大きすぎる場合、自動的に録音レベルを下げることができます。
6. ステータスエリアの [LR] のチェックマークをクリックして、チェックを入れます。これにより、録音している信号のレベルがメーター表示されるようになります。



以上で録音のための設定は完了です。

接続したアナログ機器の再生を開始し、ステータスエリアの [レベルメーター] が信号に合わせて表示されることを確認して下さい。またレベルメーターが動かない場合、["他の機器との接続" 13 ページ](#)を参照して Digital Music と機器との接続が正しいかどうか、また [37 ページ](#)を参照して再生機器を接続した入力端子が録音ソースとして選択されているかどうかを再度確認して下さい。

## 録音と保存

7. MediaSource 画面下部の **【録音】** ボタンをクリックすることで録音が開始されます。録音開始後にアナログ機器の再生を開始します。



**【録音】** ボタンをクリックして録音開始  
録音中には **【録音】** ボタンの表示が変わり、さらに **録音時間** が表示されます。

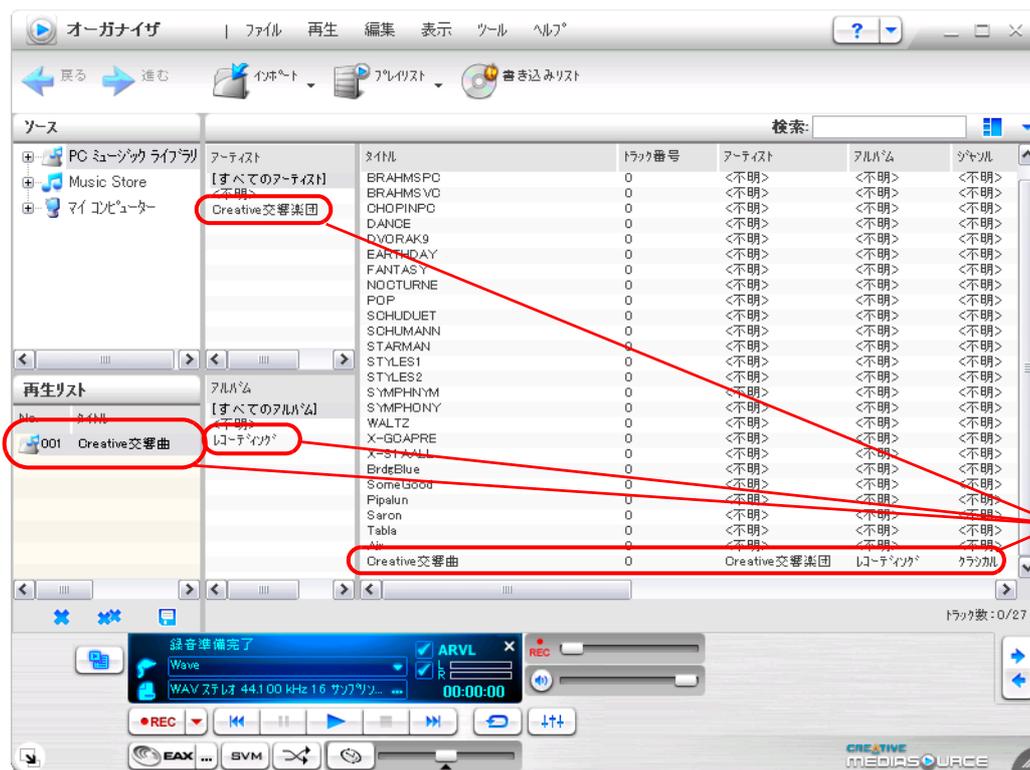


8. 録音したい分の再生が終わったら、**【停止】** ボタンをクリックします。下図の画面が表示されます。



この画面では、以下の項目を設定可能です：

- **ファイル名**.....実際にパソコン内に保存されるファイルの名称になります。初期設定では、録音を行った日時が入力されていますが、後ほど混乱しないように、分かりやすい名前を付けることをお勧めします。
  - **フォルダ**.....録音したファイルをパソコン内に保存する場所です。初期設定では **【マイドキュメント】 > 【マイミュージック】 > 【My Recordings】** フォルダ（通常は **【C ドライブ : \Documents and Settings \ <ユーザー名 > \ My Documents \ My Music \ My Recordings】**）になります。**【参照】** ボタンをクリックすることで、任意の場所を指定可能です。またこの場合 **"このフォルダに常に保存する"** をチェックしておくことで、録音作業の度にフォルダ指定を行う必要がなくなります。  
**トラック情報セクション**：これら 3 つの設定は実際のファイル名とは別に、MediaSource 内で表示する際に使用される情報です。
  - **タイトル**..... MediaSource 画面上で表示される曲のタイトルになります。
  - **アーティスト**..... アーティスト名を入力しておくことで、MediaSource 画面上でアーティスト別表示が可能になります。
  - **ジャンル**..... 音楽ジャンルを入力しておくことで、MediaSource 画面上でジャンル別表示が可能になります。
9. **【保存】** ボタンをクリックすることで、上記の設定に従って録音したファイルがパソコン内に保存され、さらに「PC ミュージックライブラリ」内に登録されます。このファイルは MediaSource 画面のコンテンツウィンドウ内のリストに加わり、さらに再生リストに登録されます（次ページ図参照）。



左記の例は、

- タイトル：  
"Creative 交響曲"
  - アーティスト：  
"Creative 交響楽団"
  - ジャンル：  
"クラシカル"
- で保存した状態です。

各項目が入力した設定に従っており、さらに PC ミュージックライブラリと再生リストに登録されています。

これらのトラック情報は MediaSource 上でいつでも変更することが可能で、トラック情報を変更しても実際のファイルには影響しません。

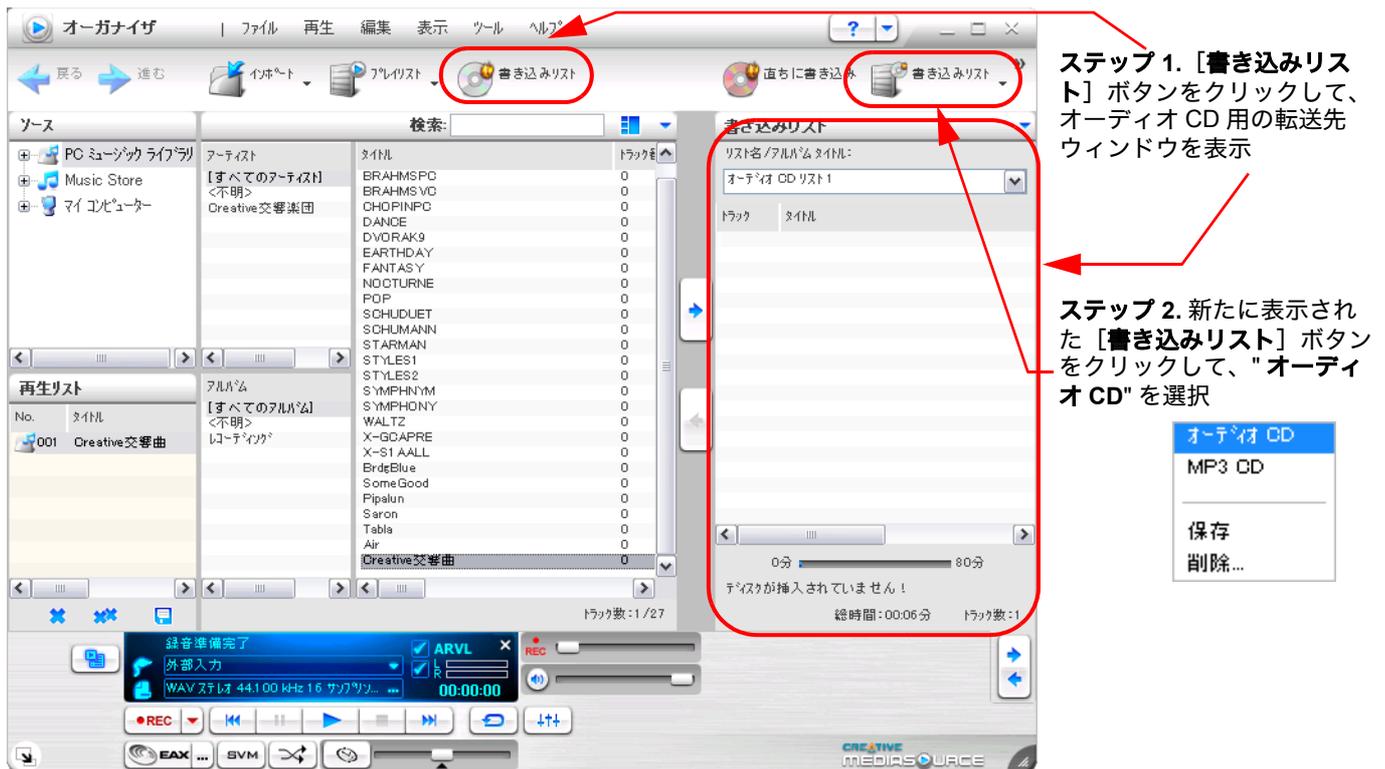
## MediaSource でオリジナルの音楽 CD を作成する

Digital Music を使用して音楽を全てパソコン上に録音したら、これらのファイルを使用してオリジナルの音楽 CD を作成することができます。なお、この機能はお使いのパソコンに CD-R/RW ドライブが搭載されていない場合は使用できません。また搭載されているドライブによっては書き込みが行えないこともあります。この場合は、CD-R/RW ドライブに付属の CD 書き込みソフトウェアをご使用下さい。

### ▶ オリジナル CD を作成する

#### CD 書き込みリストの作成

1. MediaSource 画面上部のタスクバーから **【書き込みリスト】** ボタンをクリックして転送先ウィンドウを表示します。



ステップ 1. **【書き込みリスト】** ボタンをクリックして、オーディオ CD 用の転送先ウィンドウを表示

ステップ 2. 新たに表示された **【書き込みリスト】** ボタンをクリックして、"オーディオ CD" を選択



2. 画面右側に新たに表示されたタスクバーの **【書き込みリスト】** ボタンをクリックし、表示されるメニューから "オーディオ CD" を選択します。
3. ソースウィンドウで "PC ミュージックライブラリ" をクリックして選択し、コンテンツウィンドウに選択したライブラリに含まれるトラック / ファイルを表示します。
4. **【リスト名 / アルバムタイトル】** テキストボックスにアルバム名を入力します。これは後日同じ CD を再度作成する時のために書き込みリストを保存する際に使用します。
5. 録音したファイルから CD に書き込みたいトラックを選択し、右向き **【転送】** ボタン ( ) をクリックすることで、書き込みリストに登録されます。
6. パソコンの CD-R/RW ドライブに空の CD-R メディアを挿入し、タスクバーの **【直ちに書き込み】** ボタン ( ) をクリックすることで下図の画面が表示されます。



7. **[開始]** ボタンをクリックすることで、CD 書き込みが開始されます。

## CD 書き込みリストの保存と削除

8. CD の書き込みリストを保存する場合、新たに表示されたタスクバーの **[書き込みリスト]** ボタンをクリックし、表示されるメニューから "**保存**" を選択します。これにより現在の書き込みリストが MediaSource 内に保存され、**[リスト名 / アルバムタイトル]** ボックスで選択することができます。
9. 作成した書き込みリストを削除するには、新たに表示されたタスクバーの **[書き込みリスト]** ボタンをクリックし、表示されるメニューから "**削除 ...**" を選択します。現在保存されている書き込みリストが一覧表示されますので、削除したい書き込みリストにチェックを入れて **[OK]** をクリックします。

以上で、MediaSource を使用した録音～オリジナルの音楽 CD の作成は完了です。MediaSource にはここでは解説していない沢山の優れた機能が搭載されています。これらの機能は MediaSource 画面右上の **[ヘルプ]** メニューから詳しい解説や手順を参照することができますので、ぜひ色々な使い方を試してみてください。

なお、["アナログ音源の録音とファイルのノイズ除去や自動分割を行う：\(Creative Smart Recorder 編\)" 27 ページ](#)では、Creative Smart Recorder を使用した録音と、録音したファイルのノイズ除去・自動トラック分割の方法を解説していますので、合わせてご参照下さい。

## 最後に

Digital Music の高品位なハードウェアとクリエイティブの優れたソフトウェアとの組み合わせには無限ともいえる可能性が秘められています。また Digital Music のパッケージには本ガイドで解説した以外にも優れたソフトウェアが収録されていますので、これらをフルに活用して素晴らしい音楽環境とミュージックライブラリーを構築して下さい。